

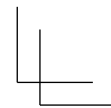
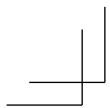
日本大学大学院 新聞学研究科



科目名索引

この大学院シラバスは、専攻の順に、今年度開講されている授業科目が掲載されている。

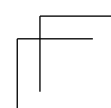
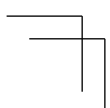
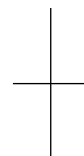
ケ	
原書研究（英）Ⅰ	570
原書研究（英）Ⅱ	572
シ	
ジャーナリズム・メディア応用研究A	574
ジャーナリズム・メディア応用研究B	576
ジャーナリズム・メディア応用研究C	578
ジャーナリズム・メディア応用研究D	581
ジャーナリズム・メディア研究調査演習A	583
ジャーナリズム・メディア研究調査演習B	585
ジャーナリズム・メディア研究の基礎	587
ジャーナリズム・メディア特殊演習C	589
ジャーナリズム・メディア特殊演習D	591
ジャーナリズム・メディア特殊講義A	593
ジャーナリズム・メディア特殊講義B	596
ジャーナリズム・メディア特殊講義C	599
ジャーナリズム・メディア特殊講義D	601
ジャーナリズム研究特殊講義A	604
ジャーナリズム研究特殊講義B	608
ジャーナリズム特殊研究A	612
ジャーナリズム特殊研究B	614
ジャーナリズム特殊研究D	618
新聞学研究所合同演習A	620
新聞学研究所合同演習B	622
フ	
文献研究（英）Ⅰ	624
文献研究（中）Ⅰ	626
文献研究（独）Ⅰ	628
文献研究（日）Ⅰ	630
文献研究（仏）Ⅰ	634
文献研究（英）Ⅱ	636
文献研究（中）Ⅱ	638
文献研究（独）Ⅱ	640
文献研究（日）Ⅱ	642
文献研究（仏）Ⅱ	646
メ	
メディア研究特殊講義A	648
メディア研究特殊講義B	650
メディア特殊研究A	652
メディア特殊研究B	654
メディア特殊研究D	658
ロ	
論文指導Ⅰ～Ⅳ	660



新聞学専攻

新聞学研究科

新聞学専攻



科目名	原書研究(英) I	担当者	山口 仁	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	メディア・コミュニケーションの一機能としてのジャーナリズムを理論的な観点から可能な限り根源的にとらえるために、関連書籍（英語）の精読を行っていく。			
授業目的・到達目標	文献講読を通じて、社会学、政治学、メディア・コミュニケーション研究に関する概念を把握し、自身の研究（修士論文や博士論文）の中で用いることができるようにする。関連するD P・C P 4， 5， 7			
履修条件	ジャーナリズムに関する理論的研究の動向について関心を持ち、国際的な議論を担当教員と共に把握する意欲を持っていること。できれば「ジャーナリズム研究における社会学的転回」に関する基礎的な知識を持っていてほしい。			
授業方法	ジャーナリズム研究の文献（英語）を課題文献としてその精読を行う。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験			
	平 常 評 価	100%	発表と討論・議論の内容に基づく。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	Routledge	The Handbook of Journalism Studies (2. ed)	K. Jørgensen他
	2009	Routledge	The Handbook of Journalisms Studies	K. Jørgensen他
	2015	Routledge	Boundaries of Journalism	M. Carlson他
	備考	このほかの文献を指示する場合もある。		
参 考 書	山口仁（2018年）『メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実』勁草書房。			
オフィスアワー	火曜日（12：10～13：00） 事前にメールで連絡することが望ましい。yamaguchi.hitoshi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの熟読と、自分の研究テーマの整理。（2時間）
	授業内容	各自の研究テーマの紹介。授業の進め方の説明と輪読箇所および発表者の決定
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
2	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
3	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）

4	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
5	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
6	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
7	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
8	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
9	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
10	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
11	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
12	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
13	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
14	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
15	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）

科目名	原書研究(英)Ⅱ	担当者	山口 仁	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	「原書研究（英）Ⅰ」に引き続き、メディア・コミュニケーションの一機能としてのジャーナリズムを理論的な観点から可能な限り根源的にとらえるために、関連書籍（英語）の精読を行っていく。			
授業目的・到達目標	文献講読を通じて、社会学、政治学、メディア・コミュニケーション研究に関する概念を把握し、自身の研究（修士論文や博士論文）の中で用いることができるようにする。関連するD P・C P 4， 5， 7			
履修条件	ジャーナリズムに関する理論的研究の動向について関心を持ち、国際的な議論を担当教員と共に把握する意欲を持っていること。できれば「ジャーナリズム研究における社会学的転回」に関する基礎的な知識を持っていたほしい。			
授業方法	ジャーナリズム研究の文献（英語）を課題文献としてその精読を行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験			
	平 常 評 価		100%	発表と討論・議論の内容に基づく。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	Routledge	The Handbook of Journalism Studies (2. ed)	K. Jørgensen他
	2009	Routledge	The Handbook of Journalisms Studies	K. Jørgensen他
	2015	Routledge	Boundaries of Journalism	M. Carlson他
	備考	このほかの文献を指示する場合もある。		
参 考 書	山口仁（2018年）『メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実』勁草書房。			
オフィスアワー	火曜日（12：10～13：00） 事前にメールで連絡することが望ましい。yamaguchi.hitoshi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの熟読と、自分の研究テーマの整理。(2時間)
	授業内容	各自の研究テーマの紹介。授業の進め方の説明と輪読箇所および発表者の決定
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
2	事前学習	課題文献の該当箇所の精読(2時間)
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)
3	事前学習	課題文献の該当箇所の精読(2時間)
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。(2時間)

4	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
5	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
6	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
7	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
8	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
9	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
10	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
11	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
12	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
13	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
14	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
15	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	輪読と討論
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）

科目名	ジャーナリズム・メディア応用研究A	担当者	大石 裕	期間	前期	単位数	2
-----	-------------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	『朝日新聞政治部』（鮫島浩著）を参考にしながら、戦後日本のジャーナリズムについて考える。				
授業目的・到達目標	戦後日本のジャーナリズム、なかでもジャーナリスト教育、記者クラブ・記者会見、調査報道、歴史認識、原発報道などの問題点に関して理解すること。 関連するD P ・ C P 新聞学研究科 1、 3				
履修条件	ジャーナリズム、ニュースに関心があること。				
授業方法	受講生による発表とそれに基づく質疑応答、議論。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	授業態度、期末レポートの内容。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2023年	慶應義塾大学法学研究会		「新聞ジャーナリズムの可能性と限界―「朝日新聞政治部」を素材にして―」『法学研究』96巻4号	大石裕
	備考	この教科書は学術論文です。受講者には最初の授業の時に、抜刷りを配布します。			
参 考 書	・ 鮫島浩『朝日新聞政治部』講談社、2022年。 ・ 大石裕『批判する/批判されるジャーナリズム』慶應義塾大学出版会、2017年。				
オフィス アワー					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの確認（1時間）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	自分の研究テーマとの関係の確認（2時間）
2	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	ジャーナリストの業界・組織への適応（1）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
3	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	ジャーナリストの業界・組織への適応（2）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）

4	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	ジャーナリスト政治家の「距離」
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
5	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	ジャーナリストと政策との関わり(1)
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
6	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	ジャーナリストと政策との関わり(2)
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
7	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	ジャーナリストと政策との関わり(3)
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
8	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	政権交代とジャーナリズム
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
9	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	調査報道（1）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
10	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	調査報道（2）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
11	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	「吉田調書」「吉田証言」問題（1）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
12	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	「吉田調書」「吉田証言」問題（2）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
13	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	「吉田調書」「吉田証言」問題（3）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
14	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	「誤報」問題とその対応
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
15	事前学習	テキスト（論文）の当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	日本のジャーナリズムの行方
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）

科目名	ジャーナリズム・メディア応用研究B	担当者	大石 裕	期間	後期	単位数	2
-----	-------------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズム論などを参照しながら、主に戦後日本の政治社会について考える。				
授業目的・到達目標	ジャーナリズムと権力、ニュースの物語分析、メディアフレームと社会運動、水俣病報道、沖縄地方紙といったテーマや問題に関しての理解を深める。 関連するD P ・ C P 新聞学研究科 1、3				
履修条件	ジャーナリズムやニュースに関心があること。				
授業方法	受講生による発表とそれに基づく質疑応答、議論。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	授業態度、期末レポートの内容。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2014年	勁草書房		メディアの中の政治	大石裕
	備考				
参 考 書	大石裕（2017）『批判する/批判されるジャーナリズム』慶應義塾大学出版会。 大石裕（2022）『コミュニケーション研究—社会の中のメディア（第5版）』慶應義塾大学出版会。				
オフィス アワー					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの確認（1時間）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	自分の研究テーマとの関係の確認（2時間）
2	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	ジャーナリズムと権力（1）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
3	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	ジャーナリズムと権力（2）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）

4	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	ジャーナリズムと権力（3）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
5	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	ニュースの物語分析（1）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
6	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	ニュースの物語分析（2）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
7	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	ニュースの物語分析（3）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
8	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	メディアフレームと社会運動（1）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
9	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	メディアフレームと社会運動（2）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
10	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	世論調査という権力
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
11	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	水俣病報道の「物語」
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
12	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	水俣病報道と労働運動
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
13	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	沖縄地方紙が紡ぐ記憶の網（1）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
14	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	沖縄地方紙が紡ぐ記憶の網（2）
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）
15	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、内容を理解する（2時間）
	授業内容	全体のまとめ
	事後学習	授業内容の確認と不明な部分の補強（2時間）

科目名	ジャーナリズム・メディア応用研究C	担当者	水野 剛也	期間	前期	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	本講の最大の目的は、アメリカのジャーナリズムの歴史について、もっぱら文献の精読とディスカッションを通じて、大学院にふさわしい水準での理解を深めることである。アメリカは日本やヨーロッパ諸国に比べ、国としての歴史は浅い。だが、こと「言論・報道の自由」に関しては、成文化された憲法の下、世界でも有数の起伏に富んだ積み上げがある。日本をはじめ世界各国に与えた影響も多大であり、居住国・地域にかかわらず、学ぶべき点が多い。			
授業目的・到達目標	上述のとおり、本講の最大の目的、かつ到達目標は、アメリカのジャーナリズムの歴史について、もっぱら文献の精読とディスカッションを通じて、大学院にふさわしい水準での理解を深めることである。受講者の関心や要望もふまえるつもりであるが、基本的には、ジャーナリズムの定義とその変遷、言論・表現の自由に関する概念の発達、憲法修正第1条、報道の発展・普及とともに形づくられたニュースの価値、他方で発生した数々の弊害をふまえ意識化されたジャーナリズムの自由と責任に関する考え方、などを主題として取りあげる予定である。上記の諸点について、基本的な知識を獲得した上で、大局的に理解することをめざすが、その過程で、文献を精読し、建設的なディスカッションを展開する能力も同時に鍛えることができるはずである。また、大学院生は、「研究者をめざす」、あるいは「研究者の素質を十分に備えた」学生であるから、自発的、かつ積極的な参加を期待し、あらゆる面において高い倫理水準を求める。DP・CP1、3			
履修条件	「条件」ではないが、英語文献の精読を前提とする課題もあるため、一定の英語能力は必要である。			
授業方法	小規模となることが予想されるので、教員による一方的な講義はしない。各自が文献を精読し、それにもとづく報告とディスカッションをくり返すことで、お互いに未知の知識や考え方を共有し、能力を相互に高めあいたい。少なくとも1度は、映画など映像作品を鑑賞、批評する回を設ける予定である。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%	試験は実施しない。	
	平常評価	100%	文献の精読、それにもとづく報告とディスカッションにむけて入念な準備をし、かつ各回において自発的・積極的に参加できているかにより評価をする。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2008	論創社	自由で責任あるメディア	米国ブレスの自由調査委員会
	2023	勁草書房	映画で学ぶジャーナリズム 社会を支える報道の仕組み	別府三奈子・飯田裕美子・水野剛也
	備考	The Commission on Freedom of the Press, A Free and Responsible Press: A General Report on Mass Communication: Newspapers, Radio, Motion Pictures, Magazines, and Books (Chicago, IL: University of Chicago Press, 1947).		
参考書	マイケル・エメリー、エドウィン・エメリー、ナンシー・L・ロバーツ『アメリカ報道史』（松柏社、2016年）。ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンスティール『ジャーナリズムの原則』（日本経済評論社、2002年）。			
オフィスアワー	金曜日の講義後（事前連絡要）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス閱讀。（120分）
	授業内容	本講の概要・目標・課題・評価方法、などを説明する。本講の概要や運営方針、アメリカのジャーナリズムの歴史について学ぶことの意義を理解し、今後、能動的に学んでいく最低限の方法を知る。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
2	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	本講ではいかなる意味で「ジャーナリズム」をとらえるかを、主要な要素をあげて解説する。ジャーナリズムにはさまざまな定義があること、逆にいえば、唯一絶対的な定義があるわけではなく、時代などによっても変わりえる動的なものであることを理解する。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
3	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	前回の内容をふまえ、より多様なジャーナリズムの定義の存在を受講者が調べ、探究する。ジャーナリズムのとらえ方には幅広い裾野があることを実体験する。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）

4	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	英米を中心とする言論・表現の自由の概念、別言すれば、ジャーナリズムによる報道の自由に対する考え方の変遷を跡づける。現在、当前視されがちな自由で批判的なジャーナリズム活動は、決して所与のものではなく、歴史的な経過のなかで発展してきたことを理解する。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
5	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	アメリカのジャーナリズムのありようを基礎づける最重要の最高法規であるアメリカ憲法修正第1条について解説する。アメリカのジャーナリズムを学ぶ上で、憲法修正第1条が絶対不可欠の要素であることを理解する。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
6	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	アメリカ憲法修正第1条の成立後に焦点をあて、アメリカのジャーナリズムのありようを基礎づける最重要の最高法規である憲法修正第1条について解説する。前回にひきつづき、アメリカのジャーナリズムを学ぶ上で、憲法修正第1条が絶対不可欠の要素であることを理解する。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
7	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	アメリカのジャーナリズムにおいて、ジャーナリズムの価値、つまり何が「ニュース」であると認識されてきたのか、代表的な考え方を紹介する。ジャーナリズムの定義についてもいえるが、ニュース価値にはさまざまな考え方があること、逆にいえば、唯一絶対的な指標があるわけではなく、時代などによっても変わりを動的なものであることを理解する。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
8	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	前回の内容をふまえ、ニュース価値のさまざまな形態を受講者が調べ、探究する。ニュース価値のとらえ方には幅広い裾野があることを実体験する。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
9	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	アメリカのジャーナリズムにとっては、これまで強調してきた自由もさることながら、社会的責任も車の両輪のごとくきわめて重要である点を説明する。ジャーナリズムの社会的責任の重要性について総論的に理解する。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
10	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	ジャーナリズムの社会的責任に関する初期の考え方について解説する。この回の到達目標＝ジャーナリズムの社会的責任の重要性について、初期の段階に焦点をあてて理解する。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
11	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	ジャーナリズムの社会的責任について、初期以降の考え方の変遷について解説する。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
12	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	ジャーナリズムの社会的責任について、より現代的な考え方について解説する。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
13	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	これまでとは趣向を変えて、映画においてジャーナリズム、ないしジャーナリストがどのように描かれてきたのかについて解説する。映画が一般市民の認識を視覚的に反映する、という認識に立ち、ジャーナリズム、ないしジャーナリストがアメリカ社会においてどのような存在として認識されてきたのかを理解する。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
14	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	これまでの活動をふまえ、各自の成果や課題などを検討する。自分自身の言葉で、これまでの講義で理解・考察してきたことを説明し、かつ他者と建設的な議論をする。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）

15	事前学習	課題文献の精読。(120分)
	授業内容	これまでの講義から学んだ諸点について総合的に議論する。
	事後学習	課題文献の精読。(120分)

科目名	ジャーナリズム・メディア応用研究D	担当者	水野 剛也	期間	後期	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	本講の最大の目的は、アメリカのジャーナリズムの歴史について、もっぱら文献の精読とディスカッションを通じて、大学院にふさわしい水準での理解を深めることである。アメリカは日本やヨーロッパ諸国に比べ、国としての歴史は浅い。だが、こと「言論・報道の自由」に関しては、成文化された憲法の下、世界でも有数の起伏に富んだ積み上げがある。日本をはじめ世界各国に与えた影響も多大であり、居住国・地域にかかわらず、学ぶべき点が多い。			
授業目的・到達目標	上述のとおり、本講の最大の目的、かつ到達目標は、アメリカのジャーナリズムの歴史について、もっぱら文献の精読とディスカッションを通じて、大学院にふさわしい水準での理解を深めることである。受講者の関心や要望もふまえるつもりであるが、基本的には、ジャーナリズムの定義とその変遷、言論・表現の自由に関する概念の発達、憲法修正第1条、報道の発展・普及とともに形づくられたニュースの価値、他方で発生した数々の弊害をふまえ意識化されたジャーナリズムの自由と責任に関する考え方、などを主題として取りあげる予定である。上記の諸点について、基本的な知識を獲得した上で、大局的に理解することをめざすが、その過程で、文献を精読し、建設的なディスカッションを展開する能力も同時に鍛えることができるはずである。また、大学院生は、「研究者をめざす」、あるいは「研究者の素質を十分に備えた」学生であるから、自発的、かつ積極的な参加を期待し、あらゆる面において高い倫理水準を求める。DP・CP1、3			
履修条件	「条件」ではないが、英語文献の精読を前提とする課題もあるため、一定の英語能力は必要である。			
授業方法	小規模となることが予想されるので、教員による一方的な講義はしない。各自が文献を精読し、それにもとづく報告とディスカッションをくり返すことで、お互いに未知の知識や考え方を共有し、能力を相互に高めあいたい。少なくとも1度は、映画など映像作品を鑑賞、批評する回を設ける予定である。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%	試験は実施しない。	
	平常評価	100%	文献の精読、それにもとづく報告とディスカッションにむけて入念な準備をし、かつ各回において自発的・積極的に参加できているかにより評価をする。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2008	論創社	自由で責任あるメディア	米国ブレスの自由調査委員会
	2023	勁草書房	映画で学ぶジャーナリズム 社会を支える報道の仕組み	別府三奈子・飯田裕美子・水野剛也
	備考	The Commission on Freedom of the Press, A Free and Responsible Press: A General Report on Mass Communication: Newspapers, Radio, Motion Pictures, Magazines, and Books (Chicago, IL: University of Chicago Press, 1947).		
参考書	マイケル・エメリー、エドウィン・エメリー『アメリカ報道史』（松柏社、2016年）。ビル・コヴァッチ、トム・ローゼンスティール『ジャーナリズムの原則』（日本経済評論社、2002年）。			
オフィスアワー	金曜日の講義後（事前連絡要）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス閲読。（120分）
	授業内容	本講の概要・目標・課題・評価方法、などを説明する。本講の概要や運営方針、アメリカのジャーナリズムの歴史について学ぶことの意義を理解し、今後、能動的に学んでいく最低限の方法を知る。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
2	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	課題文献である米国ブレスの自由調査委員会、渡辺武達訳『自由で責任あるメディア』（論創社、2008年）について概説する。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
3	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	課題文献の「まえがき」を精読し、担当者の報告にもとづき、ディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）

4	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	課題文献の「第1章」を精読し、担当者の報告にもとづき、ディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
5	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	課題文献の「第2章」を精読し、担当者の報告にもとづき、ディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
6	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	課題文献の「第3章」を精読し、担当者の報告にもとづき、ディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
7	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	課題文献の「第4章」を精読し、担当者の報告にもとづき、ディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
8	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	これまで精読してきた課題文献の内容全体についてディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
9	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	課題文献の「第5章」を精読し、担当者の報告にもとづき、ディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
10	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	課題文献の「第6章」を精読し、担当者の報告にもとづき、ディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
11	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	課題文献の「補論」を精読し、担当者の報告にもとづき、ディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
12	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	課題文献の「解説」を精読し、担当者の報告にもとづき、ディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
13	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	あらためて、これまで精読してきた課題文献の内容全体についてディスカッションをする。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
14	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	これまでの活動をふまえ、各自の成果や課題などを検討する。自分自身の言葉で、これまでの講義で理解・考察してきたことを説明し、かつ他者と建設的な議論をする。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）
15	事前学習	課題文献の精読。（120分）
	授業内容	これまでの講義から学んだ諸点について総合的に議論する。
	事後学習	課題文献の精読。（120分）

科目名	ジャーナリズム・メディア研究調査 演習A	担当者	中 正 樹	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズム調査における基本的な考え方や方法論を、演習形式で学ぶ。本演習において調査対象になるのは、新聞ジャーナリズムが提供するテキスト形式のニュース・コンテンツである。			
授業目的・到達目標	本授業の目的は、新聞ジャーナリズムが提供するニュース・コンテンツに関する実証研究を通じて、実証研究の意義と意味、そして有効性を理解することである。そのために、ニュース・コンテンツに対する内容分析と考察、及びそれらを説明できる能力を習得することを目標とする。 関連するDP・CP：4・5・7			
履修条件	ノートパソコン、またはタブレットを用いて受講可能な環境を用意できること。			
授業方法	調査方法に対する講義とディスカッション、実際の作業を中心に進める。授業では資料は配布しない。事前に、Google Classroomを通じて配布する。受講生は、資料を授業前に読み込んでおく。また、受講生による発表は、ノートパソコンまたはタブレットを使用する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	授業への参加度で判断する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。		
参 考 書	特になし。			
オフィス アワー	月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室） ※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス:naka.masaki@nihon-u.ac.jp）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでおく（2時間）。
	授業内容	ガイダンス／導入講義 授業の内容、進め方について確認する。
	事後学習	ガイダンスの内容について十分に理解する（2時間）。
2	事前学習	新聞ジャーナリズムが提供する記事の意義と意味について考えをまとめておく（2時間）。
	授業内容	ニュースとは何か 新聞ジャーナリズムが提供する記事の意義と意味についてディスカッションする。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
3	事前学習	調査対象とするイベントをピックアップし、その概要を説明できるように準備する（2時間）。
	授業内容	調査テーマの検討（1） 調査対象とするイベントについて検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。

4	事前学習	調査対象とするイベントをピックアップし、その概要を説明できるように準備する（2時間）。
	授業内容	調査テーマの検討（2） 調査対象とするイベントについて検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
5	事前学習	調査において参考となる先行研究を抽出する（2時間）。
	授業内容	先行研究の検討（1） 調査において参考となる先行研究について検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
6	事前学習	調査において参考となる先行研究を抽出する（2時間）。
	授業内容	先行研究の検討（2） 調査において参考となる先行研究について検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
7	事前学習	先行研究の検討を通じて、調査計画の概要を立案する（2時間）。
	授業内容	＜調査計画の報告＞ 調査対象とするイベントを内容分析するための計画を検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
8	事前学習	調査対象とするイベントを取り扱った新聞ジャーナリズムが提供する記事を収集し、報告する準備をする（2時間）。
	授業内容	調査計画の報告（1） 調査対象とするイベントを内容分析するための計画を検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
9	事前学習	調査対象とするイベントを取り扱った新聞ジャーナリズムが提供する記事を収集し、報告する準備をする（2時間）。
	授業内容	調査計画の報告（2） 調査対象とするイベントを内容分析するための計画を検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
10	事前学習	調査対象とするイベントを取り扱った新聞ジャーナリズムが提供する記事を収集し、報告する準備をする（2時間）。
	授業内容	内容分析（1） 収集した新聞ジャーナリズムが提供する記事を内容分析することを通じて、その報道傾向について考察する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
11	事前学習	調査対象とするイベントを取り扱った新聞ジャーナリズムが提供する記事を収集し、報告する準備をする（2時間）。
	授業内容	内容分析（2） 収集した新聞ジャーナリズムが提供する記事を内容分析することを通じて、その報道傾向について考察する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
12	事前学習	内容分析の結果を取りまとめ、プレゼンテーションする準備をする（2時間）。
	授業内容	プレゼンテーション（1） 内容分析の結果を取りまとめ、プレゼンテーションする。
	事後学習	プレゼンテーションに対する意見をもとに、新聞ジャーナリズムに対する理解を深める（2時間）。
13	事前学習	内容分析の結果を取りまとめ、プレゼンテーションする準備をする（2時間）。
	授業内容	プレゼンテーション（2） 内容分析の結果を取りまとめ、プレゼンテーションする。
	事後学習	プレゼンテーションに対する意見をもとに、新聞ジャーナリズムに対する理解を深める（2時間）。
14	事前学習	すべての調査結果を取りまとめ、調査報告書を作成する。（2時間）。
	授業内容	調査報告書の検討（1） 調査の概要およびその結果をまとめた調査報告書を提出してもらい、その内容について意見を交換する。
	事後学習	調査報告書に対する意見交換を通じて得た知見をもとに、ジャーナリズム調査に対する理解を深める（2時間）。
15	事前学習	すべての調査結果を取りまとめ、調査報告書を作成する。（2時間）。
	授業内容	調査報告書の検討（2） 調査の概要およびその結果をまとめた調査報告書を提出してもらい、その内容について意見を交換する。
	事後学習	調査報告書に対する意見交換を通じて得た知見をもとに、ジャーナリズム調査に対する理解を深める（2時間）。

科目名	ジャーナリズム・メディア研究調査 演習B	担当者	中 正 樹	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズム調査における基本的な考え方や方法論を、演習形式で学ぶ。本演習において調査対象になるのは、放送ジャーナリズムが提供するテキスト形式のニュース・コンテンツである。			
授業目的・到達目標	本授業の目的は、放送ジャーナリズムが提供するニュース・コンテンツに関する実証研究を通じて、実証研究の意義と意味、そして有効性を理解することである。そのために、ニュース・コンテンツに対する内容分析と考察、及びそれらを説明できる能力を習得することを目標とする。 関連するDP・CP：4・5・7			
履修条件	ノートパソコン、またはタブレットを用いて受講可能な環境を用意できること。			
授業方法	調査方法に対する講義とディスカッション、実際の作業を中心に進める。授業では資料は配布しない。事前に、Google Classroomを通じて配布する。受講生は、資料を授業前に読み込んでおく。また、受講生による発表は、ノートパソコンまたはタブレットを使用する。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	授業への参加度で判断する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	特になし。		
参 考 書	特になし。			
オフィスアワー	月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室） ※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス:naka.masaki@nihon-u.ac.jp）			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでおく（2時間）。
	授業内容	ガイダンス／導入講義 授業の内容、進め方について確認する。
	事後学習	ガイダンスの内容について十分に理解する（2時間）。
2	事前学習	放送ジャーナリズムが提供するニュースの意義と意味について考えをまとめておく（2時間）。
	授業内容	ニュースとは何か 放送ジャーナリズムが提供する記事の意義と意味についてディスカッションする。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
3	事前学習	調査対象とするイベントをピックアップし、その概要を説明できるように準備する（2時間）。
	授業内容	調査テーマの検討（1） 調査対象とするイベントについて検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。

4	事前学習	調査対象とするイベントをピックアップし、その概要を説明できるように準備する（2時間）。
	授業内容	調査テーマの検討（2） 調査対象とするイベントについて検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
5	事前学習	調査において参考となる先行研究を抽出する（2時間）。
	授業内容	先行研究の検討（1） 調査において参考となる先行研究について検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
6	事前学習	調査において参考となる先行研究を抽出する（2時間）。
	授業内容	先行研究の検討（2） 調査において参考となる先行研究について検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
7	事前学習	先行研究の検討を通じて、調査計画の概要を立案する（2時間）。
	授業内容	＜調査計画の報告＞ 調査対象とするイベントを内容分析するための計画を検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
8	事前学習	調査対象とするイベントを取り扱った放送ジャーナリズムが提供するニュースを収集し、報告する準備をする（2時間）。
	授業内容	調査計画の報告（1） 調査対象とするイベントを内容分析するための計画を検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
9	事前学習	調査対象とするイベントを取り扱った新聞ジャーナリズムが提供するニュースを収集し、報告する準備をする（2時間）。
	授業内容	調査計画の報告（2） 調査対象とするイベントを内容分析するための計画を検討する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
10	事前学習	調査対象とするイベントを取り扱った放送ジャーナリズムが提供するニュースを収集し、報告する準備をする（2時間）。
	授業内容	内容分析（1） 収集した放送ジャーナリズムが提供するニュースを内容分析することを通じて、その報道傾向について考察する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
11	事前学習	調査対象とするイベントを取り扱った放送ジャーナリズムが提供するニュースを収集し、報告する準備をする（2時間）。
	授業内容	内容分析（2） 収集した放送ジャーナリズムが提供するニュースを内容分析することを通じて、その報道傾向について考察する。
	事後学習	復習を通じて、授業に対する理解を深める（2時間）。
12	事前学習	内容分析の結果を取りまとめ、プレゼンテーションする準備をする（2時間）。
	授業内容	プレゼンテーション（1） 内容分析の結果を取りまとめ、プレゼンテーションする。
	事後学習	プレゼンテーションに対する意見をもとに、放送ジャーナリズムに対する理解を深める（2時間）。
13	事前学習	内容分析の結果を取りまとめ、プレゼンテーションする準備をする（2時間）。
	授業内容	プレゼンテーション（2） 内容分析の結果を取りまとめ、プレゼンテーションする。
	事後学習	プレゼンテーションに対する意見をもとに、放送ジャーナリズムに対する理解を深める（2時間）。
14	事前学習	すべての調査結果を取りまとめ、調査報告書を作成する。（2時間）。
	授業内容	調査報告書の検討（1） 調査の概要およびその結果をまとめた調査報告書を提出してもらい、その内容について意見を交換する。
	事後学習	調査報告書に対する意見交換を通じて得た知見をもとに、ジャーナリズム調査に対する理解を深める（2時間）。
15	事前学習	すべての調査結果を取りまとめ、調査報告書を作成する。（2時間）。
	授業内容	調査報告書の検討（2） 調査の概要およびその結果をまとめた調査報告書を提出してもらい、その内容について意見を交換する。
	事後学習	調査報告書に対する意見交換を通じて得た知見をもとに、ジャーナリズム調査に対する理解を深める（2時間）。

科目名	ジャーナリズム・メディア研究の基礎	担当者	米倉 律	期間	前期	単位数	2
-----	-------------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズム、メディア、コミュニケーション現象への多様な社会科学的な方法を手法の基礎を学修する。				
授業目的・到達目標	自らの問いを学術的に追究するために、ジャーナリズム及びメディアに関するリサーチ・デザインの手法と、その実践のための力を身につける。 修士論文へ向けて、具体的な問題を構成する。 問題に対するアプローチを選択し、研究計画を立てる。 関連するDP・CP 新聞学研究科DP・CP1, 2, 5				
履修条件	とくになし。				
授業方法	研究科教員によるオムニバス形式で、講義形式を基本とし、必要に応じて議論をする。 授業の一環として、学期末に新聞学研究科大学院生合同研究発表会で発表・議論をする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	レポート、発表・討論・議論、授業への参画度などを総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	授業時適宜指示する。			
参 考 書	各回の授業時、各担当教員が適宜指示する。				
オフィスアワー	水曜日昼休み。研究室は本館1719号室。メールで事前にアポイントを取って欲しい。 メールアドレス：yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認しておく。(30分)
	授業内容	イントロダクション 講義のねらい・目的、授業計画など
	事後学習	自らの研究計画を構想する。(60分)
2	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。(30分)
	授業内容	研究とは何か（制度） 制度研究における問題のたてかた
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。(120分)
3	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。(30分)
	授業内容	研究とは何か（理論） 理論研究における問題のたてかた
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。(120分)

4	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。（30分）
	授業内容	研究とは何か（歴史） 歴史研究における問題のたてかた
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。（120分）
5	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。（30分）
	授業内容	研究の方法（制度） アプローチ、手法など
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。（120分）
6	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。（30分）
	授業内容	研究の方法（理論） アプローチ、手法など
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。（120分）
7	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。（30分）
	授業内容	研究の方法（歴史） アプローチ、手法など
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。（120分）
8	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。（30分）
	授業内容	データ・リサーチ（制度） データ収集、分析など
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。（120分）
9	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。（30分）
	授業内容	データ・リサーチ（理論） データ収集、分析など
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。（120分）
10	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。（30分）
	授業内容	データ・リサーチ（歴史） データ収集、分析など
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。（120分）
11	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。（30分）
	授業内容	研究の実践例① 具体的な研究事例から研究の提示
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。（120分）
12	事前学習	事前資料（GoogleClassroomなどを通じて）を確認しておく。（30分）
	授業内容	研究の実践例② 具体的な研究事例から研究の提示
	事後学習	資料と授業内容を反芻し、研究計画を再確認する。（120分）
13	事前学習	問題を構成し、研究計画を立て、プレゼンテーションの準備をする。（480分）
	授業内容	研究発表
	事後学習	研究発表会での発表と議論を経て、自らの問題構成と研究計画を再構築する。（480分）
14	事前学習	問題を構成し、研究計画を立て、プレゼンテーションの準備をする。（480分）
	授業内容	研究発表
	事後学習	研究発表会での発表と議論を経て、自らの問題構成と研究計画を再構築する。（480分）
15	事前学習	問題を構成し、研究計画を立て、プレゼンテーションの準備をする。（480分）
	授業内容	研究発表
	事後学習	研究発表会での発表と議論を経て、自らの問題構成と研究計画を再構築する。（480分）

科目名	ジャーナリズム・メディア特殊演習C	担当者	小林 義寛	期間	前期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	オーディエンス・ファン・ユーザーⅠ この講義では、古典的な効果・影響研究による受け手研究の問題点を確認し、その後のカルチュラル・スタディーズ(CS)を中心としたオーディエンス研究を考察する。その上で、ジャーナリズム・メディア特殊演習Dの導入として、CSによるオーディエンス研究の問題点を議論とともに確認し、学修する。				
授業目的・到達目標	古典的な効果・影響研究の問題点を理解する。 CSによるオーディエンス研究の概要を把握する。 オーディエンス研究の問題点を考察する。 受け手研究、オーディエンス研究の問題点について説明できる。 関連するDP・CP 新聞学研究科DP・CP4・5・7				
履修条件	とくになし。				
授業方法	授業資料をGoogleClassroom上に用意しておくので、それを参照しつつ、概略の簡単な講義を基に、質疑応答、議論・討論を重ねる、講義と演習の両形式でおこなう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	小レポート、発表、討論、レポートなどを総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	とくになし。			
参 考 書	授業資料をGoogleClassroom上に用意する。 授業時に適宜指示する。				
オフィス アワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro〇nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認しておく。(30分)
	授業内容	ガイダンス この授業について、授業の進め方、授業計画など
	事後学習	古典的な効果・影響研究の復習(120分)
2	事前学習	古典的な効果・影響研究の確認(60分)
	授業内容	古典的な効果影響研究の問題点① 初期→およそ1970年代までの効果・影響研究の復習
	事後学習	身近な事例で古典的な効果・影響研究を考える。(120分)
3	事前学習	事例を基に・古典的な効果・影響研究の問題点を考える。(60分)
	授業内容	古典的な効果影響研究の問題点② 古典的な効果・影響研究の問題点を議論する。
	事後学習	古典的な効果・影響研究の問題点をまとめる。(60分)

4	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	S. Hallによる批判① 古典的研究へのホールの批判、社会的条件
	事後学習	ホールによる批判点としての社会的条件をについて身近な事例から理解する。(120分)
5	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	S. Hallによる批判② ホールによる映像メディアの特性
	事後学習	身近な映像メディアでホールの議論を考える。(120分)
6	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	S. Hallによる批判③ デコーディングに関する仮説的モデル
	事後学習	身近な事例で仮説的モデルを考える。(120分)
7	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	CSIによるオーディエンス研究① 代表的な研究事例を考察する。
	事後学習	研究事例を基にオーディエンスについて考える。(60分)
8	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	CSIによるオーディエンス研究② 代表的な研究事例を考察する。
	事後学習	研究事例を基にオーディエンスについて考える。(60分)
9	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	CSIによるオーディエンス研究③ 代表的な研究事例を考察する。
	事後学習	研究事例を基にオーディエンスについて考える。(60分)
10	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	CSIによるオーディエンス研究④ 代表的な研究事例を考察する。
	事後学習	研究事例を基にオーディエンスについて考える。(60分)
11	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	CSIによるオーディエンス研究⑤ 代表的な研究事例を考察する。
	事後学習	研究事例を基にオーディエンスについて考える。(60分)
12	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	オーディエンス研究の問題点① ハートレイの議論を基に考察する。
	事後学習	ハートレイが何を問題にしたかを理解する。(60分)
13	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	オーディエンス研究の問題点② ハートレイの議論を基に考察する。
	事後学習	ハートレイが何を問題にしたかを理解する。(60分)
14	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	オーディエンス研究の問題点③ オーディエンス研究の問題点について議論する。
	事後学習	オーディエンス概念自体を問い直す。(120分)
15	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	オーディエンス研究の問題点④：まとめをかねて 演習Dの事前学習を兼ね、オーディエンス研究の問題点を整理する。
	事後学習	オーディエンス研究の問題点をまとめる。(180分)

科目名	ジャーナリズム・メディア特殊演習D	担当者	小林 義寛	期間	後期	単位数	1
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	オーディエンス・ファン・ユーザーⅡ この講義では、ジャーナリズム・メディア特殊演習Cの講義内容を前提に、オーディエンス研究の問題点を考察した上で、ファン、ユーザーに焦点をあて、受け手とされてきた人びとの利用実践を考える。				
授業目的・到達目標	オーディエンス研究の問題点を理解する。 ファン、ユーザーといった概念を把握する。 メディアやコミュニケーションといったICTに関する、人びとの利用実践に関するアプローチを考察する。 オーディエンス研究の問題点を説明できる。 関連するDP・CP 新聞学研究科DP・CP4・5・7				
履修条件	とくになし。				
授業方法	授業資料をGoogleClassroom上に用意しておくので、それを参照しつつ、概略の簡単な講義を基に、質疑応答、議論・討論を重ねる、講義と演習の両形式でおこなう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	小レポート、発表、討論、レポートなどを総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	とくになし。			
参考書	授業資料をGoogleClassroom上に用意する。 授業時に適宜指示する。				
オフィスアワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro〇nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認しておく。(30分)
	授業内容	ガイダンス この授業について、授業の進め方、授業計画など
	事後学習	ジャーナリズム・メディア特殊演習Cの復習をする。(120分)
2	事前学習	オーディエンス研究の問題点の確認(60分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディア特殊演習Cの復習① オーディエンス研究の問題点、フィクションとしてのオーディエンス：オーディエンス≠実体
	事後学習	オーディエンス概念をめぐる議論の確認。(120分)
3	事前学習	技術としてのメディア、ICTを確認する。(60分)
	授業内容	ジャーナリズム・メディア特殊演習Cの復習② 技術としてのメディアについて議論をする。
	事後学習	テクノロジー研究の意義を確認する。(60分)

4	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ファン研究① オーディエンスとファンとの関係、ファンとは誰かetc
	事後学習	ファン研究が何を焦点にしているか、を確認する。(60分)
5	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ファン研究② ファン研究が焦点にしているものを議論する。
	事後学習	ファンの実践に対する視点を理解する。(60分)
6	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ファン研究③ ファン研究の事例①
	事後学習	ファン研究の事例を復習する。(60分)
7	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ファン研究④ ファン研究の事例②
	事後学習	ファン研究の事例からわかることを考える。(60分)
8	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ファン研究⑤ ファン研究の特徴を議論する。
	事後学習	ファン研究の課題を考察する。(120分)
9	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ユーザー研究① オーディエンスの問題点→ユーザーという視点、ファン・ユーザー≠実体
	事後学習	身近なICTの利用について考察する。(60分)
10	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ユーザー研究② ICTの利用実践について考える。
	事後学習	身近なICTの利用について考察する。(60分)
11	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ICT研究③ 人びとの利用実践について考える。
	事後学習	利用実践に関するアプローチを考察する。(60分)
12	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ICT研究④ 利用実践に関するアプローチを議論する。
	事後学習	利用実践に関するアプローチを考察する。(60分)
13	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ユーザー研究⑤ 利用実践に関するアプローチを議論する。
	事後学習	利用実践に関するアプローチを考察する。(60分)
14	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	オーディエンス、ファン、ユーザー研究の問題点と課題① 演習全体の議論をまとめた討論
	事後学習	ジャーナリズム・メディア特殊演習CとD全体の議論を総括する。(120分)
15	事前学習	GoogleClassroom上の資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	オーディエンス、ファン、ユーザー研究の問題点と課題① 演習全体の議論をまとめた討論→メディア研究の今後の課題
	事後学習	ジャーナリズム・メディア特殊演習CとD全体の議論をまとめ、メディア研究の今後の課題を考察する。(180分)

科目名	ジャーナリズム・メディア特殊講義A	担当者	本多 周爾	期間	前期	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	コミュニケーション、メディア、あるいはジャーナリズムの理論と視点から国民国家を取り巻くテーマと諸問題について考察する。近代国家の誕生と主権の確立、国民国家の成立、国家統合・国民統合の過程とそこでのコミュニケーション、マス・メディアの機能と役割、民族、エスニシティ、ナショナリズムとジャーナリズム、さらに国家建設に向けた開発コミュニケーション、開発ジャーナリズム等について分析、検討する。				
授業目的・到達目標	コミュニケーション論、メディア論、ジャーナリズム論の視点から課題にアプローチし、事象を取り巻く状況を問題発見的に分析し、考察することできるようになることを目的とする。 コミュニケーション・メディア、ジャーナリズムに関する専門的な基礎知識を修得し、それらの理論と視点から、国家、国民、民族、エスニシティ、ナショナル・アイデンティティ、ナショナリズム、統合と開発等の問題に関する研究テーマを理解し、詳細に分析、検討し、さらにそれらが抱える課題について説明できる。 関連するDP・CP：新聞学研究科1、3				
履修条件	特になし				
授業方法	配布するレジメ・プリント、参考書に即して、講義形式と演習形式を交えて授業を進める。 質疑応答、ディスカッションを通じて、授業内でフィードバックする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	発表・報告と講読（70％）、ディスカッション（30％）をもって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考				
参考書	・本多周爾『国際コミュニケーションの政治学』春風社、2017年。 ・本多周爾『発展と開発のコミュニケーション政策』武蔵野大学出版会、2007年。				
オフィスアワー	火曜日16:10～16:30授業講堂にて。なお、事前にメールでアポイントメントをとること。 honda.shuji11@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業で講ずるテーマを念頭に、シラバスで参考書としてあげた文献に目を通しておくこと（2時間）。
	授業内容	授業のオリエンテーション 授業の概要、テーマ、スケジュールと進め方、参考文献の紹介、研究の方法等について説明する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考書、参考文献に沿って復習しておくこと（2時間）。
2	事前学習	第1回目の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	授業の範囲とテーマの設定 コミュニケーション・メディア、ジャーナリズムについての理論を紹介し、次にアプローチする対象である国民国家に関連する研究テーマを選定し、それらについて検討する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考書、参考文献に沿って復習しておくこと（2時間）。
3	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	近代国家と主権の確立 現代世界を形成している原型として近代国家の誕生と主権による政治秩序の萌芽について考察する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと（2時間）。

4	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	国民国家の成立と展開 近代国家による政治世界の主体である国民国家が成立してきた過程とそれが抱える課題について検討する
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
5	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	国家統合の理論 国民国家が成立する際に、国家統合はいかに果たされてきたのかについて論じた統合論に言及する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
6	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	国民統合の過程 国家統合に際し、国民を形成する過程を論じている諸理論について、現実の国家建設に照らして検討する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
7	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	国家統合におけるコミュニケーションの機能 国家統合においてコミュニケーションが果たしてきた役割を検討し、現実の国家建設におけるコミュニケーションの機能について考察する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
8	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	国民統合におけるメディアの役割 国民統合においてマス・メディアが担ってきた機能を検討し、国民形成の過程においてマス・メディアが果たし得る役割は何かを考える。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
9	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	エスニシティ、マイノリティとジャーナリズム 国家統合、国民統合において、エスニック・グループ、マイノリティの主張をメディアはいかに伝えてゆくべきかを考える。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
10	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	ナショナリズムの概念と諸相 国民国家にとって思想的な支柱であり、それを構成する国民、あるいは民族の行動原理でもあるナショナリズムについて分析する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
11	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	ナショナリズムとジャーナリズム ナショナリズムの再生産において、メディアとジャーナリズムが果たす機能について考察する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
12	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	開発をめぐる概念とパラダイムの転換 国家建設における近代化と開発に関する理論と、その思想的背景にあるパラダイムとその転換の意味について考察する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
13	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	開発コミュニケーションにおけるパラダイム転換 コミュニケーション・情報資源を活用して開発を進めることを主眼とする開発コミュニケーションを論じ、それをめぐるパラダイムが転換してきた経緯と意味を考察する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
14	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	開発ジャーナリズムについて 国家が開発と発展を進める中で、マスメディアにはどのような役割が課せられ、どのような機能が期待されているのかを考える。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。

15	事前学習	第1回から14回までに配布したレジメ・プリントに目を通し、それぞれのテーマ毎に提示した論点とディスカッションのテーマについて整理しておくこと（2時間）。
	授業内容	総括と課題の検討 授業において分析、考察した各テーマについて総括し、そこで浮上してきた課題について検討する。
	事後学習	授業で議論した研究課題、研究テーマについて検討し、それらに対する自らの知見を整理すること（2時間）。

科目名	ジャーナリズム・メディア特殊講義B	担当者	本多 周爾	期間	後期	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	コミュニケーション、メディア、あるいはジャーナリズムの理論と視点から情報とメディアを取り巻くテーマと諸問題について考察する。国際的な情報流通の不均衡、その是正のための新たな情報コミュニケーション秩序の構築の動き、先進諸国による発展途上諸国の文化とメディアの支配、情報化とグローバル化、戦争とメディア報道、情報戦略としてのプロパガンダ、政治宣伝等について考察する。				
授業目的・到達目標	コミュニケーション論、メディア論、ジャーナリズム論の視点から課題にアプローチし、事象を取り巻く状況を問題発見的に分析し、考察することできるようになることを目的とする。 コミュニケーション・メディア、ジャーナリズムに関する専門的な基礎知識を修得し、それらの理論と視点から、南北間に横たわる情報流通の不均衡と情報格差、文化をめぐる帝国主義的な支配の実態、情報通信環境の変容、戦争をめぐるメディア報道、政治宣伝、プロパガンダ等について論じ、それらが抱える課題について説明できる。 関連するDP・CP：新聞学研究科1、3				
履修条件	特になし				
授業方法	配布するレジメ・プリント、教科書、参考書に即して、講義形式と演習形式を交えて授業を進める。 質疑応答、ディスカッションを通じて、授業内でフィードバックする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	発表・報告と講読（70％）、ディスカッション（30％）をもって評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考				
参考書	・本多周爾『国際コミュニケーションの政治学』春風社、2017年。 ・本多周爾『発展と開発のコミュニケーション政策』武蔵野大学出版会、2007年。				
オフィスアワー	火曜日16:10～16:30授業講堂にて。なお、事前にメールでアポイントメントをとること。honda.shuji11@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	授業で講ずるテーマを念頭に、シラバスで参考書としてあげた文献に目を通しておくこと。（2時間）。
	授業内容	授業のオリエンテーション 授業の概要、テーマ、スケジュールと進め方、参考文献の紹介、研究の方法等について説明する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考書、参考文献に沿って復習しておくこと（2時間）。
2	事前学習	第1回目の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間）。
	授業内容	授業の範囲と論点の設定 コミュニケーション、情報、ジャーナリズムに関する理論を紹介する一方、それを基に授業でアプローチす論点を選定する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考書、参考文献に沿って復習しておくこと（2時間）。
3	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間）。
	授業内容	情報コミュニケーション・システムの様態 高度情報社会といわれる今日の世界におけるコミュニケーションと情報のシステムのあり様について考察する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと（2時間）。

4	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	情報格差と情報流通の不均衡 コミュニケーションと情報の流れが南北間で不均衡であるという現状を是正しようという動き、それをめぐる先進諸国と発展途上諸国間の対立について考察する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
5	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	ジャーナリズムをめぐる南北問題 南北間の情報流通をめぐる問題は量的格差のみならず、言論の自由、ジャーナリズムの自由をめぐる違いが浮き彫りになっている現実を考える。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
6	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	新情報コミュニケーション秩序の構築 新しい情報コミュニケーション秩序形成の問題点と、メディア産業、情報産業の肥大化と一元化、寡占化と情報格差拡大という現実を考える。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
7	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	情報化によるコミュニケーション環境への影響 情報通信技術の発展は、国民国家のコミュニケーションのあり様、さらにナショナル・アイデンティティにどのような影響を及ぼすかについて検討する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
8	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	グローバル化がコミュニケーション環境に及ぼす影響 グローバル化という現象に伴う国民国家の揺らぎ、それをめぐるコミュニケーション環境の変化について検討する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
9	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	文化帝国主義論 先進諸国は経済のみならず、文化の面においても、発展途上諸国を間接的に支配し、その文化的な自律性を奪っているとする議論について検討する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
10	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	メディア帝国主義論 先進諸国は、マス・メディア、情報におけるソフトと技術力を通して、発展途上諸国のメディアを操作し、文化に多大な影響力を及ぼしているとする議論を考える。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
11	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	戦争と国際報道 戦争について当事国、さらにそれ以外の国々のマス・メディアはどのように報道してきたのか、戦争をめぐる国際報道のあり方について考察する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
12	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	戦争とジャーナリズム 戦争についてマス・メディアはどのように報道してきたのかをめぐって、戦時におけるジャーナリズムの果たす役割について考える。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
13	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	戦争とプロパガンダ 戦時において自国の戦意の高揚、敵国の戦意の喪失等のために繰り広げられるプロパガンダの問題点について、理論と事例に沿って検討する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。
14	事前学習	前回の授業で配布したレジメ・プリントであげた次回のテーマについての参考文献、参考資料に目を通して予習しておくこと(2時間)。
	授業内容	政治宣伝とジャーナリズム 大衆動員と扇動のために利用されるプロパガンダ、政治宣伝に対してジャーナリズムがなすべき事柄と役割とは何かについて考察する。
	事後学習	配布したレジメ・プリントにあげた当該授業の論点とディスカッションのテーマについて、参考文献に沿って復習しておくこと(2時間)。

15	事前学習	第1回から14回までに配布したレジメ・プリントに目を通し、それぞれのテーマ毎に提示した論点とディスカッションのテーマについて整理しておくこと（2時間）。
	授業内容	総括と課題の検討 授業において分析、考察した各テーマについて総括し、そこで浮上してきた課題について検討する。
	事後学習	授業で議論した研究課題、研究テーマについて検討し、それらに対する自らの知見を整理すること（2時間）。

科目名	ジャーナリズム・メディア特殊講義C	担当者	小林 義寛	期間	前期	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	現代日本のマンガ・アニメ・ゲームⅠ 現代日本のポップカルチャーの中からマンガ、アニメ、ゲームに焦点をあてる。この講義Cにおいては、特に現代マンガの構造とそれの成立までの歴史過程を中心に学修する。そして、1970年代以後のアニメ、ゲームとの連関を概観し、講義Dへの導入までを学修する。				
授業目的・到達目標	この講義は、現代日本マンガの基本構造と特徴を通して、日本の文化・社会の理解と、講義Dの予備的考察の基礎を形成することを目的とする。 現代マンガの成立までの歴史的過程を日本の社会・文化状況との関係で理解する。 現代日本マンガの特徴を理解し、諸外国のマンガとの相違点を通して、日本のポップカルチャーの世界への影響を考察する。 関連するDP・CP新聞学研究科1, 3				
履修条件	特になし。				
授業方法	資料をGoogleClassroom上にアップしておくので、それを利用して、基本的には講義形式となるが、状況に応じて議論をおこなう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	授業時における議論およびレポート等を基に総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし。			
参 考 書	授業資料をGoogleClassroom上に資料をアップする。 また、授業時に適宜参考文献、資料を指示する。				
オフィス アワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro〇nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認しておくこと。(30分)
	授業内容	ガイダンス授業 授業の目的、授業内容の確認、今後の授業計画など
	事後学習	ガイダンス授業の内容を再度確認しておく。(30分)
2	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	日本のポップカルチャーの諸外国への影響 諸外国（特に欧米）へ越境する日本のマンガ、アニメ、ゲームおよびそれに付随するコスプレ等の文化について概観する。
	事後学習	授業資料を再確認しながら授業内容を復習し、越境の状況を把握する。(60分)
3	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	マンガの構成要素① 古典的な研究の概観→現代的なマンガ研究：表現構造によるマンガの定義へ……コマの重要性
	事後学習	授業資料を基に、表現構造に着目する理由を理解し、メディア論との関係を考察する。(120分)

4	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	マンガの構成要素② 表現構造によるマンガの定義：複製芸術など マンガの構造モデル（への導入）
	事後学習	複製による大量生産＝コピー：複製芸術→ベンヤミンの複製技術に関する考察など、授業内容を基に復習し、理解する。(180分)
5	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	マンガの構成要素③ マンガの構造モデル①マンガに必要な要素、マンガの構図など
	事後学習	手塚治虫を中心に確立したコマの連続の意義、マンガにおける絵とは何を意味するかなどを授業を復習し、考える。(60分)
6	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	マンガの構成要素④ マンガの構造モデル②マンガの構図：枠線、描線(背景、音論、形論(マンガ記号))など
	事後学習	マンガの構図、日本マンガの特徴としての描線などに関して、身近なマンガ表現を参照・確認しておく。そこから日本のマンガの特徴を理解する。(120分)
7	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	日本の少年マンガ① 現代マンガ成立前史として、幕末から大正、昭和初期までの歴史の概観する。
	事後学習	授業内容を踏まえ、日本の近代化の初期過程について、その社会、文化の変容過程を考察する。(180分)
8	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	日本の少年マンガ② 戦中のマンガ：言論統制下におけるマンガ、少年マンガの基本形態
	事後学習	戦時体制下における思想や表現の自由の統制とその頃に成立するマンガの枠組みについて、確認しておく。(60分)
9	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	日本の少年マンガ③ 戦後マンガの状況(出版状況)、手塚治虫による現代マンガの成立
	事後学習	日本の戦後の民主化とその時期の社会状況を確認し、その時期の出版状況とマンガのあり方を理解する。(60分)
10	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	日本の少年マンガ④ スポーツマンガ(野球マンガ)の構造、劇画etc
	事後学習	戦中期の少年マンガの枠組みとスポーツマンガの関係、少年ジャンプのスローガンなどを基に、問題点などを考察する。(120分)
11	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	日本の少女マンガ① 戦前→1960年代の少女マンガ、マーガレットの誕生：少女マンガの原型の確立
	事後学習	少女マンガの原型にみられる特徴とそれ以前の少女マンガの差異を理解する。(60分)
12	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	日本の少女マンガ② 70年代における少女マンガの表現の革新：花の24年組の意義＝手塚マンガの矛盾の克服
	事後学習	手塚のマンガ表現における矛盾を確認し、少女マンガの意義を理解する。(60分)
13	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	日本の少女マンガ③ 言語の位相化：萩尾望都を例に、少女マンガ表現の拡散と難解化
	事後学習	言語の位相化の意義と、その他領域への影響を理解する。(60分)
14	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ジャンルの解体と融合① 少女マンガ表現の拡散：やおい、少年マンガとの関係、少女小説→ライトノベルetc
	事後学習	女性たちによる表現領域の拡大がどのような影響をもたらしたかを考察する。(180分)
15	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ジャンルの解体と融合②：まとめをかねて 宇宙戦艦ヤマト、機動戦士ガンダム、銀河鉄道999などによるアニメブーム、少女マンガ表現の拡散、ゲーム表現の誕生etc
	事後学習	講義Dへの予習をかねて、80年代とそれ以後のマンガと他ジャンルとの関係を概観し、身近なマンガ表現との関係を考察しておく。(180分)

科目名	ジャーナリズム・メディア特殊講義D	担当者	小林 義寛	期間	後期	単位数	2
-----	-------------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	現代日本のマンガ・アニメ・ゲームⅡ 現代日本のポップカルチャーの中からマンガ、アニメ、ゲームに焦点をあてる。この講義Dにおいては、講義Cを前提に、まず60年代初頭の手塚によるアニメの特徴を確認し、1970年代後半以後のジャンルの解体と融合およびゲームとその後の展開、インターネット時代でのポップカルチャーの状況を学修する。				
授業目的・到達目標	この講義は、講義Cでの学修を前提に、現代日本のマンガ、アニメ、ゲームの特徴を、日本の文化・社会の理解とともに考察し、諸外国との類似と差異とを理解することを目的とする。 現代日本のマンガ、アニメ、ゲームなどに関して、その文化の基盤と背景を理解する。 現代日本マンガ、アニメ、ゲームに関して、諸外国との類似と差異とに着目し、日本のポップカルチャーの世界への影響を考察する。 関連するDP・CP新聞学研究科1, 3				
履修条件	ジャーナリズム・メディア特殊講義Cを履修していること。				
授業方法	資料をGoogleClassroom上にアップしておくので、それを利用して、基本的には講義形式となるが、状況に応じて議論をおこなう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	授業時における議論およびレポート等を基に総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし。			
参 考 書	授業資料をGoogleClassroom上に資料をアップする。 また、授業時に適宜参考文献、資料を指示する。				
オフィス アワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro〇nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認しておくこと。(30分)
	授業内容	ガイダンス授業 授業の目的、授業内容の確認、今後の授業計画など
	事後学習	ガイダンス授業の内容を再度確認しておく。(30分)
2	事前学習	ジャーナリズム・メディア特殊講義Cの復習(60分)
	授業内容	ジャンルの融合と解体：ジャーナリズム・メディア特殊講義Cの復習 80年代前後以来のジャンルの解体と融合および変容、新規メディアの誕生などの状況の確認 スリップストリームなど
	事後学習	ジャーナリズム・メディア特殊講義Cを踏まえて、授業内容を確認しておく。(60分)
3	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	アニメの誕生① アニメーションとアニメの相違、フルアニメとリミテッドアニメ 手塚治虫によるアニメーション制作技法＝アニメの誕生
	事後学習	アニメの特徴を理解する。(30分)

4	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	アニメの誕生② 手塚アニメの技法：リミテッドアニメ、パンクシステム、スターシステムなど
	事後学習	手塚治虫による制作技法を確認しておく。(30分)
5	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	シミュレーションとしてのマンガ：童夢 大塚英志による大友克洋のマンガ表現技法、
	事後学習	大友マンガの特徴を捉え、シミュレーション概念を理解しておく。(60分)
6	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	物語消費論① シミュラクルや記号消費など、物語消費論の前提
	事後学習	身近な事例などを通して、シミュラクル概念を理解する。(120分)
7	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	物語消費論② 物語消費とはなにか、物語消費の発展の結果は
	事後学習	身近な事例を取り上げ、物語消費の視点から考察する。(180分)
8	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ゲーム的リアリズム① ポストモダンなど、東浩紀ののゲーム的リアリズムの前提、 キャラクター消費、データベース消費、動物化
	事後学習	リオータルによるポストモダン概念を把握する。(60分)
9	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ゲーム的リアリズム② メディア環境の変容：コンテンツ志向のメディア→コミュニケーション志向のメディア 想像力の環境の変容：自然主義リアリズム→まんが・アニメ的リアリズム→ゲーム的リアリズム
	事後学習	東による環境の変容を理解し、その問題点について考察する。(120分)
10	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ゲーム的リアリズム③ メディア環境の変容に関する東の議論の問題点
	事後学習	メディア環境の変容について考察する。(120分)
11	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ゲーム的リアリズム④ 想像力の環境の変容に関する東の議論の問題点： 1970年代後半から80年代の少女小説、ゲーム世界
	事後学習	想像力の環境の変容について考察する。(120分)
12	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ゲーム的リアリズム⑤ 東によるキャラクターやデータベースなどの議論の問題点： 手塚アニメの技法(パンクシステム、スターシステムなど)、キャラクターと作品、サンリオなど
	事後学習	手塚アニメの技法を再確認し、それと東の議論とを比較する。(60分)
13	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	ゲーム的リアリズム⑥ キャラクター消費の問題点②： カワイイ消費を振り返る、カワイイ概念の拡張など
	事後学習	身近なカワイイについて確認してみる。(60分)
14	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	日本産コンテンツの世界への拡張 ICTを介したマンガ、アニメとそれ以前のマンガ、アニメ ファン・コミュニティ
	事後学習	日本的なマンガ、アニメが世界へと拡散した理由について考察する。(180分)

15	事前学習	GoogleClassroom上にある資料を確認しておく。(30分)
	授業内容	まとめ ジャーナリズム・メディア特殊講義CとDを通したまとめ 日本のマンガ、アニメ、ゲームの特徴、世界との関係など
	事後学習	日本のマンガ、アニメ、ゲームの特徴と日本の文化、社会との関係を理解する。(180分)

科目名	ジャーナリズム研究特殊講義A	担当者	中 正 樹	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディアの変化にともない、ジャーナリズムのあり方も大きく変化した。そのことを踏まえ、現在のジャーナリズムの基本的な構造を学び、それを理解することを通じて、これからのジャーナリズムについて考える視座を獲得する。				
授業目的・到達目標	授業目的：現在のジャーナリズムの基本構造を学び、それを理解する。 到達目標：これからのジャーナリズムについて考える視座を獲得する。 関連するDP・CP：1、2				
履修条件	大学院新聞学研究科の大学院生のうち、ジャーナリズムを研究領域として関心を持つ者。				
授業方法	教科書を使用し、指定された担当部部分を講読、その内容を課題として報告することを通じて、学びを深めていく。教科書については初回授業において学生と相談して決定する。授業では、原則としてノートパソコンまたはタブレットを用いる。授業に関する告知や課題などの提出は、Google Classroomを用いる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験		0%		
	平 常 評 価		100%	授業への参加度、および提出課題の完成度で評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	初回授業において、受講生と相談して決定する。			
参 考 書	受講生の研究テーマによって、必要な研究文献を適宜指示する。				
オフィスアワー	月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室） ※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス：naka.masaki@nihon-u.ac.jp）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでおく（2時間）。
	授業内容	ガイダンス／導入講義 授業の内容、進め方について確認する。
	事後学習	ガイダンスの内容について十分に理解する（2時間）。
2	事前学習	教科書の指定された担当部部分を講読し、レジュメとしてまとめる（2時間）。
	授業内容	担当部分の検討
	事後学習	レジュメについてのディスカッションの内容を省みて、復習する（2時間）。
3	事前学習	教科書の指定された担当部部分を講読し、レジュメとしてまとめる（2時間）。
	授業内容	担当部分の発表
	事後学習	レジュメについてのディスカッションの内容を省みて、復習する（2時間）。

科目名	ジャーナリズム研究特殊講義A	担当者	山口 仁	期間	前期	単位数	2
-----	----------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	メディア・コミュニケーションの一機能としてのジャーナリズムを理論的な観点から可能な限り根源的にとらえていく。メディア・ジャーナリズム理論に関する論文執筆のための基礎的素養を高めていく。			
授業目的・到達目標	メディア・ジャーナリズム理論研究に関する議論を把握し、自身の研究（修士論文や博士論文）の中で用いることができるようにする。 関連するDP・CP：1, 2			
履修条件	ジャーナリズムに関する理論的研究の動向について関心、および「ジャーナリズム研究における社会学的転回（Jorgensen and Hanitzsch 2009：4-9）」に関する基礎的な知識を持っていること。			
授業方法	課題文献を設定してその精読を行う。翻訳が主ではなく、メディア・ジャーナリズムの理論研究に関する理解とそれをもとにした議論を行っていく。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定期試験			
	平常評価		100%	文献講読に関する発表内容と討論・議論の内容に基づく。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	Routledge	The Handbook of Journalism Studies (2. ed)	K. Jørgensen他
	2016	Routledge	Theories of Journalism in a Digital Age	S. Steensen
	2016	下記URL参照	Theories of Journalism	S. Reese
	備考	このほかの文献を指示する場合もある。初回課題論文 （ https://doi.org/10.1093/acrefore/9780190228613.013.83 ）		
参考書	山口仁（2018年）『メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実』勁草書房。			
オフィスアワー	火曜日（12：10～13：00） 事前にメールで連絡することが望ましい。yamaguchi.hitoshi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスと初回課題論文の熟読。（2時間）
	授業内容	S. Reese “Theories of Journalism”の講読・議論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
2	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	S. Reese “Theories of Journalism”の講読・議論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
3	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	“Journalism Studies: Developments, Challenges, and Future Directions” in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の講読・議論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）

4	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	“Journalism Studies: Developments, Challenges, and Future Directions” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の講読・議論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
5	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	“Journalism Studies: Developments, Challenges, and Future Directions” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の講読・議論③
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
6	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	“Journalism Theory” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の講読・議論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
7	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	“Journalism Theory” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の講読・議論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
8	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	“Journalism Theory” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の講読・議論③
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
9	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	” News Organizations and Routines” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の輪読と討論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
10	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	” News Organizations and Routines” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の輪読と討論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
11	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	” News Organizations and Routines” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の輪読と討論③
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
12	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	”Boundary Work Matt” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の輪読と討論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
13	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	”Boundary Work Matt” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の輪読と討論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
14	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	”Boundary Work Matt” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の輪読と討論③
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
15	事前学習	1～14回までの授業をもとにした課題資料の作成（2時間）
	授業内容	授業を通じて学んだ概念を自己の研究に反映させるための検討・討論
	事後学習	自身の研究論文への反映に向けたブラッシュアップ（2時間）

科目名	ジャーナリズム研究特殊講義B	担当者	中 正 樹	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディアの変化にともない、ジャーナリズムはかつてない危機的な状況にある。そのことを踏まえ、現在のジャーナリズムにおける問題を学び、それを理解することを通じて、これからのジャーナリズムについて考える視座を獲得する。				
授業目的・到達目標	授業目的：現在のジャーナリズムにおける問題を学び、それを理解する。 到達目標：これからのジャーナリズムについて考える視座を獲得する。 関連するDP・CP：1、2				
履修条件	大学院新聞学研究科の大学院生のうち、ジャーナリズムを研究領域として関心を持つ者。				
授業方法	教科書を使用し、指定された担当部部分を講読、その内容を課題として報告することを通じて、学びを深めていく。教科書については初回授業において学生と相談して決定する。授業では、原則としてノートパソコンまたはタブレットを用いる。授業に関する告知や課題などの提出は、Google Classroomを用いる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業への参加度、および提出課題の完成度で評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	初回授業において、受講生と相談して決定する。			
参考書	受講生の研究テーマによって、必要な研究文献を適宜指示する。				
オフィスアワー	月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室） ※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス：naka.masaki@nihon-u.ac.jp）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでおく（2時間）。
	授業内容	ガイダンス／導入講義 授業の内容、進め方について確認する。
	事後学習	ガイダンスの内容について十分に理解する（2時間）。
2	事前学習	教科書の指定された担当部部分を講読し、レジュメとしてまとめる（2時間）。
	授業内容	担当部分の検討
	事後学習	レジュメについてのディスカッションの内容を省みて、復習する（2時間）。
3	事前学習	教科書の指定された担当部部分を講読し、レジュメとしてまとめる（2時間）。
	授業内容	担当部分の発表
	事後学習	レジュメについてのディスカッションの内容を省みて、復習する（2時間）。

科目名	ジャーナリズム研究特殊講義B	担当者	山口 仁	期間	後期	単位数	2
-----	----------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	メディア・コミュニケーションの一機能としてのジャーナリズムを理論的な観点から可能な限り根源的にとらえていく。メディア・ジャーナリズム理論に関する論文執筆のための基礎的素養を高めていく。特にニュースメディア・コンテンツに関する理論的な議論を学ぶ。			
授業目的・到達目標	メディア・ジャーナリズム理論研究に関する議論を把握し、自身の研究（修士論文や博士論文）の中で用いることができるようにする。 関連するDP・CP：1, 2			
履修条件	ジャーナリズムに関する理論的研究の動向について関心、「ジャーナリズム理論特殊研究」を履修済みであることが望ましい。			
授業方法	課題文献を設定してその精読を行う。翻訳が主ではなく、メディア・ジャーナリズムの理論研究に関する理解とそれをもとにした議論を行っていく。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験			
	平 常 評 価		100%	文献講読に関する発表内容と討論・議論の内容に基づく。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	Routledge	The Handbook of Journalism Studies (2. ed)	K. Jørgensen他
	2016	Routeledge	Theories of Journalism in a Digital Age	S.Steensen
	備考			
参 考 書	山口仁（2018年）『メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実』勁草書房。			
オフィスアワー	火曜日（12：10～13：00） 事前にメールで連絡することが望ましい。yamaguchi.hitoshi@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスと初回課題論文の熟読。（2時間）
	授業内容	“News Values and News Selection” in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の講読・議論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
2	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	“News Values and News Selection” in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の講読・議論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
3	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	“News Values and News Selection” in The Handbook of Journalism Studies (2. ed)の講読・議論③
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）

4	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	“Framing the News” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の講読・議論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
5	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	“Framing the News” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の講読・議論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
6	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	“Framing the News” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の講読・議論③
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
7	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	“News, Discourse, and Ideology” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の講読・議論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
8	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	“News, Discourse, and Ideology” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の講読・議論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
9	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	“News, Discourse, and Ideology” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の講読・議論③
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
10	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	News and Storytelling” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の輪読と討論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
11	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	News and Storytelling” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の輪読と討論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
12	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	News and Storytelling” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の輪読と討論③
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
13	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	“Journalism and Democracy” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の輪読と討論①
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
14	事前学習	課題文献の該当箇所の精読（2時間）
	授業内容	“Journalism and Democracy” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の輪読と討論②
	事後学習	輪読文献の考察、レジュメやレポートの作成。（2時間）
15	事前学習	課題文献の該当箇所の精読と1～14回までの授業をもとにした課題資料の作成（2時間以上）
	授業内容	“Journalism and Democracy” in The Handbook of Journalism Studies（2. ed）の輪読と討論③ と自身の研究論文への適用可能性についての検討。
	事後学習	自身の研究論文への反映に向けたブラッシュアップ（2時間）

科目名	ジャーナリズム特殊研究A	担当者	三谷 文栄	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	現代民主主義において、一般の人々はメディアを介して政治を経験することから、政治におけるメディアの役割は極めて重要である。近年は、インターネットやSNSなど、多様なコミュニケーションがみられるようになり、政治コミュニケーション研究は、より一層その重要性を増している。この講義を通じて政治とメディアを分析するための、基本的な枠組みを学ぶ。					
授業目的・到達目標	政治コミュニケーション論がいかに発展してきたのかを理解し、その上で政治コミュニケーション論で注目されている文献を取り上げ、議論する。それを通じて、政治コミュニケーション論の観点から、様々な出来事を分析できるようになることが目標である。関連するD P・C P 1， 3					
履修条件	特にないが、英語の文献を取り上げるので、英日辞書やアプリ等を準備してほしい。					
授業方法	基本的には英語文献の輪読を行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		授業内の議論を通じて、各自の理解度を確認する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	備考	字数制限により、ここで提示しきれないため、第一回目にて説明する。				
参考書	必要に応じて適宜対応します。					
オフィスアワー						

【授業計画】

回数	授 業 内 容		
1	事前学習	シラバスを読む（2時間）	
	授業内容	ガイダンス：講義のスケジュールや、分担の確認。	
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）	
2	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）	
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論	
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）	
3	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）	
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論	
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）	

4	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
5	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
6	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
7	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
8	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
9	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
10	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
11	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
12	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
13	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
14	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
15	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論と前期のまとめ
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）

科目名	ジャーナリズム特殊研究B	担当者	三谷 文栄	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	現代民主主義において、一般の人々はメディアを介して政治を経験することから、政治におけるメディアの役割は極めて重要である。近年は、インターネットやSNSなど、多様なコミュニケーションがみられるようになり、政治コミュニケーション研究は、より一層その重要性を増している。前期に続いてこの講義では、政治とメディアを分析するための基本的な枠組みを輪読を通じて学ぶ。				
授業目的・到達目標	政治コミュニケーション論がいかに発展してきたのかを理解し、その上で政治コミュニケーション論で注目されている文献を取り上げ、議論する。それを通じて、政治コミュニケーション論の観点から、様々な出来事を分析できるようになることが目標である。関連するD P・C P 1, 3				
履修条件	ジャーナリズム特殊研究Aを履修していることが望ましい。また、英語の文献を取り上げるので、英日辞書やアプリ等を準備してほしい。				
授業方法	基本的には英語文献の輪読を行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	授業内の議論を通じて、各自の理解度を確認する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	字数制限により、ここで提示しきれないため、第一回目にて説明する。			
参 考 書	必要に応じて適宜対応します。				
オフィス アワー					

【授業計画】

回数	授 業 内 容		
1	事前学習	シラバスを読む（2時間）	
	授業内容	ガイダンス：講義のスケジュールや、分担の確認。	
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）	
2	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）	
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論	
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）	
3	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）	
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論	
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）	

4	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
5	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
6	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
7	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
8	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
9	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
10	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
11	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
12	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
13	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
14	事前学習	配布された文献で、わからないところを確認する。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）
15	事前学習	講義を通じて学んだ分析枠組みがどのように自身の研究に活用できるのかを考える。（2時間）
	授業内容	政治コミュニケーション論の文献の輪読と討論と後期のまとめ
	事後学習	配布された文献を読む。（2時間）

科目名	ジャーナリズム特殊研究C	担当者	塚本 晴二郎	期間	前期	単位数	2
-----	--------------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	本講義は情報発信者のための倫理学を学ぶ講義である。日本ではメディア関係の倫理学の場合に、法で規制しきれない部分を補うためのもののように倫理学を扱う。それがどれだけ間違っただことであるか明確にするのが本講義の主な内容である。つまり自身の行為に関する法を守ることと、倫理的な行為を行う事の相違について講義する。中でも、客観報道論を中心テーマとして講義を進める。			
授業目的・到達目標	本講義は、広く社会環境やメディア環境に影響を与えている関連法制や関連政策などに関する諸問題に対する、ジャーナリスト等の情報発信者として必要な高度な倫理観を育み、客観報道とは何かを理解すること目的とする。それゆえ、広く社会環境やメディア環境に影響を与えている関連法制や関連政策を批判的に捉える、ジャーナリスト等の情報発信者として必要な高度な倫理観を育み、客観報道とは何かを理解することを目標とする。関連するDP・CP新聞学研究科1, 3			
履修条件	大学院の講義である以上、学部レベルの基礎知識があることは大前提である。			
授業方法	テキストに沿って講義を進める。必要に応じて、レポート提出を求める。レポートの書き方は、予め指導する。提出されたレポートに関する講評は、講義内で行うとともに、希望者には、個人指導の時間を設ける。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	準備学習の程度50%、授業時に行う議論の内容等50%。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2021	日本評論社	ジャーナリズムの規範理論	塚本晴二郎
	備考			
参考書	受講者の関心に応じて、柔軟に対応していくので、適宜に指示する。			
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み　あるいはメールにて予約　tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認するとともに、学部での「ジャーナリズム倫理」等の科目の内容を把握しておく。(2時間)
	授業内容	講義のテーマや内容、講義スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、講義の進め方を説明し、受講生が講義の準備を具体的に行えるようにする。
	事後学習	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。(2時間)
2	事前学習	テキストの第1章の1を読み、専門職教育とジャーナリズム倫理学について考察する。(2時間)
	授業内容	専門職教育とジャーナリズム倫理学について解説する。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
3	事前学習	テキストの第1章の2を読み、『自由で責任あるプレス』の意義を考察する。(2時間)
	授業内容	『自由で責任あるプレス』の意義を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)

4	事前学習	テキストの第1章の3を読み、社会的責任論の意義を考察する。(2時間)
	授業内容	社会的責任論について論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
5	事前学習	テキストの第2章の1を読み、メルルの社会的責任論批判について考察する。(2時間)
	授業内容	メルルの社会的責任論批判に関して論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
6	事前学習	テキストの第2章の2を読み、メルルのジャーナリズム倫理学に関して考察する。(2時間)
	授業内容	メルルのジャーナリズム倫理学を解説する。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
7	事前学習	テキストの第2章の3を読み、実存主義ジャーナリズムについて考察する。(2時間)
	授業内容	実存主義ジャーナリズムを論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
8	事前学習	テキストの第2章の4を読み、カール・ノルデンシュテレンクとの論争について考察する。(2時間)
	授業内容	カール・ノルデンシュテレンクとの論争について論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
9	事前学習	テキストの第3章の1を読み、Committed Journalismについて考察する。(2時間)
	授業内容	Committed Journalismの内容を概観する。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
10	事前学習	テキストの第3章の2を読み、スティワードシップについて考察する。(2時間)
	授業内容	スティワードシップについて論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
11	事前学習	テキストの第3章の3を読み、ASNE原則声明について考察する。(2時間)
	授業内容	ASNE原則声明について論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
12	事前学習	テキストの第3章の4を読み、ジョン・ロールズの『正義論』について考察する。(2時間)
	授業内容	ロールズの『正義論』について論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
13	事前学習	テキストの第3章の5を読み、ジェローム・A・バロンの「メディア・アクセス権論」について考察する。(2時間)
	授業内容	バロンの「メディア・アクセス権論」について論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
14	事前学習	テキストの第3章の6を読み、アラスデア・マッキンタイアの思想について考察する。(2時間)
	授業内容	マッキンタイアの思想について論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
15	事前学習	初回からの講義ノートを見直し、講義内容をを再検討する。(2時間)
	授業内容	初回からの講義内容を整理し、重要な点は何かを検討し合う。
	事後学習	すべての講義ノートを確認し、これまで学んできたことを整理する。(2時間)

科目名	ジャーナリズム特殊研究D	担当者	塚本 晴二郎	期間	後期	単位数	2
-----	--------------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	本講義は情報発信者のための倫理学を学ぶ講義である。日本ではメディア関係の倫理学の場合に、法で規制しきれない部分を補うためのもののように倫理学を扱う。それがどれだけ間違っただことであるか明確にするのが本講義の主な内容である。つまり自身の行為に関する法を守ることと、倫理的な行為を行う事の相違について講義する。中でも、「極化」現象とジャーナリズムの倫理を中心テーマとして講義を進める。				
授業目的・到達目標	本講義は、広く社会環境やメディア環境に影響を与えている関連法制や関連政策などに関する諸問題に対する、ジャーナリスト等の情報発信者として必要な高度な倫理観を育み、「極化」現象とジャーナリズムの倫理の問題点とは何かを理解することを目的とする。 それゆえ、広く社会環境やメディア環境に影響を与えている関連法制や関連政策を批判的に捉える、ジャーナリスト等の情報発信者として必要な高度な倫理観を育み、「極化」現象とジャーナリズムの倫理の問題点とは何かを理解することを目標とする。関連するDP・CP新聞学研究科1, 3				
履修条件	大学院の講義である以上、学部レベルの基礎知識があることは大前提である。あわせて、ジャーナリズム特殊研究Cの単位取得者であることも必須条件とする。				
授業方法	テキストに沿って講義を進める。必要に応じて、レポート提出を求める。レポートの書き方は、予め指導する。提出されたレポートに関する講評は、講義内で行うとともに、希望者には、個人指導の時間を設ける。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	準備学習の程度50%、授業時に行う議論の内容等50%。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2021	日本評論社	ジャーナリズムの規範理論		塚本晴二郎
	備考				
参考書	受講者の関心に応じて、柔軟に対応していくので、適宜に指示する。				
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み　あるいはメールにて予約　tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	「ジャーナリズム特殊研究C」で学んだことをふまえて、テキストの第4章の1を読み、クリフォード・G・クリスチャンズの問題意識について考察する。(2時間)
	授業内容	若干の「ジャーナリズム特殊研究C」の復習の後、クリスチャンズの問題意識を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
2	事前学習	テキストの第4章の2を読み、クリスチャンズの啓蒙主義批判について考察する。(2時間)
	授業内容	クリスチャンズの啓蒙主義批判を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)
3	事前学習	テキストの第4章の3を読み、クリスチャンズの自由主義批判について考察する。(2時間)
	授業内容	クリスチャンズの自由主義批判を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。(2時間)

4	事前学習	テキストの第4章の4を読み、クリスチャンズの功利主義批判について考察する。（2時間）
	授業内容	クリスチャンズの功利主義批判を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。（2時間）
5	事前学習	テキストの第4章の5を読み、クリスチャンズの道具主義批判について考察する。（2時間）
	授業内容	クリスチャンズの道具主義批判を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。（2時間）
6	事前学習	テキストの第4章の6を読み、クリスチャンズの相対主義批判について考察する。（2時間）
	授業内容	クリスチャンズの相対主義批判を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。（2時間）
7	事前学習	テキストの第4章の7を読み、クリスチャンズのジャーナリズム倫理学について考察する。（2時間）
	授業内容	クリスチャンズのジャーナリズム倫理学を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。（2時間）
8	事前学習	テキストの第4章の8を読み、クリスチャンズのトランスフォーマティブ・ジャーナリズムについて考察する。（2時間）
	授業内容	クリスチャンズのトランスフォーマティブ・ジャーナリズムを論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。（2時間）
9	事前学習	テキストの終章の1を読み、「真実を述べること」と「信頼をえること」について考察する。（2時間）
	授業内容	ジャーナリズムにおける「真実を述べること」と「信頼をえること」を論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。（2時間）
10	事前学習	テキストの終章の2を読み、ジャーナリズムの定義について考察する。（2時間）
	授業内容	ジャーナリズムの定義について論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。（2時間）
11	事前学習	テキストの終章の3を読み、ナショナリスティック・アプローチについて考察する。（2時間）
	授業内容	ナショナリスティック・アプローチについて論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。（2時間）
12	事前学習	テキストの終章の4を読み、リバタリアン・アプローチについて考察する。（2時間）
	授業内容	リバタリアン・アプローチについて論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。（2時間）
13	事前学習	テキストの終章の5を読み、リベラル・ジャーナリズムについて考察する。（2時間）
	授業内容	リベラル・ジャーナリズムについて論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。（2時間）
14	事前学習	テキストの終章の6を読み、コミュニタリアン・ジャーナリズムについて考察する。（2時間）
	授業内容	コミュニタリアン・ジャーナリズムについて論じる。
	事後学習	講義ノートを確認し講義の内容を確実に把握する。疑問点は必ず次回講義で質問できるように準備をする。（2時間）
15	事前学習	初回からの講義ノートを見直し、初回からの講義内容をを再検討する。（2時間）
	授業内容	初回からの講義内容を整理し、重要な点は何かを検討し合う。
	事後学習	すべての講義ノートを確認し、これまで学んできたことを整理する。（2時間）

科目名	新聞学研究所合同演習A	担当者	米倉 律	期間	前期	単位数	1
-----	-------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	日本大学法学部新聞学研究所における研究プロジェクト(研究指導部門を含む)との合同演習で、ジャーナリズム、メディア、コミュニケーションに関連した研究プロジェクトに参加することで、プロジェクトメンバーからの調査研究の指導を実施で受ける（あるいは外部研究者による調査研究の指導を受ける）。				
授業目的・到達目標	実際のプロジェクトに参加することで、調査研究の実際の企画・運営を体験しながら理解する。 外部研究者による実際の調査研究にふれることで、多様な研究の方法を体得できる。 プロジェクトあるいは研究指導での経験を基に、自らの研究計画を構成する。 関連するDP・CP 新聞学研究科DP・CP4, 5, 8				
履修条件	とくになし。				
授業方法	この科目は①事前調査、②インターンシップ、③事後報告、④事後レポートの作成をする。 なお、新聞学研究所のプロジェクトあるいは研究指導の実施に合わせてそれに参加する。そのため、授業スケジュールなどに変動がある。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	小レポート、プロジェクト(研究指導)への参加度合い、報告書レポートなどを総合的に評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	プロジェクト(研究指導)により適宜指示する。			
参 考 書	プロジェクト(研究指導)により適宜指示する。				
オフィスアワー	水曜日昼休み。研究室は本館1719号室。メールで事前にアポイントを取って欲しい。 メールアドレス：yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認する。(30分)
	授業内容	ガイダンス 授業について、新聞学研究所について、授業計画など
	事後学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
2	事前学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
	授業内容	新聞学研究所のプロジェクトについて① 過去のプロジェクト、研究所のTV映像アーカイブについて、など
	事後学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
3	事前学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
	授業内容	報告書の書き方① 報告会用資料、事後報告書
	事後学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)

4	事前学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
	授業内容	報告書の書き方② 報告会用資料、事後報告書
	事後学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
5	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加①
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
6	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加②
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
7	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加③
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
8	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加④
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
9	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加⑤
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
10	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加⑥
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
11	事前学習	報告用資料作成(120分)
	授業内容	合同演習事後報告① 演習での成果の報告会
	事後学習	事後報告書作成(60分)
12	事前学習	報告用資料書作成(120分)
	授業内容	合同演習事後報告② 演習での成果の報告会
	事後学習	事後報告書作成(60分)
13	事前学習	報告用資料作成(60分)
	授業内容	合同演習事後報告③ 演習での成果の報告会
	事後学習	事後報告書作成(60分)
14	事前学習	報告用資料作成(60分)
	授業内容	合同演習事後報告③ 演習での成果の報告会
	事後学習	事後報告書作成(60分)
15	事前学習	事後報告書作成(60分)
	授業内容	まとめと反省
	事後学習	事後報告書のまとめ(180分)

科目名	新聞学研究所合同演習B	担当者	米倉 律	期間	後期	単位数	1
-----	-------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	日本大学法学部新聞額研究所における研究プロジェクト(研究指導部門を含む)との合同演習で、ジャーナリズム、メディア、コミュニケーションに関連した研究プロジェクトに参加することで、プロジェクトメンバーからの調査研究の指導を実施で受ける（あるいは外部研究者による調査研究の指導を受ける）。			
授業目的・到達目標	実際のプロジェクトに参加することで、調査研究の実際の企画・運営を体験しながら理解する。 外部研究者による実際の調査研究にふれることで、多様な研究の方法を体得できる。 プロジェクトあるいは研究指導での経験を基に、自らの研究計画を構成する。 関連するDP・CP 新聞学研究科DP・CP4, 5, 8			
履修条件	とくになし。			
授業方法	この科目は①事前調査、②インターンシップ、③事後報告、④事後レポートの作成をする。 なお、新聞学研究所のプロジェクトあるいは研究指導の実施に合わせてそれに参加する。そのため、授業スケジュールなどに変動がある。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験			
	平 常 評 価		100%	小レポート、プロジェクト(研究指導)への参加度合い、報告書レポートなどを総合的に評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	プロジェクト(研究指導)により適宜指示する。		
参 考 書	プロジェクト(研究指導)により適宜指示する。			
オフィスアワー	水曜日昼休み。研究室は本館1719号室。メールで事前にアポイントを取って欲しい。 メールアドレス：yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認する。(30分)
	授業内容	ガイダンス 授業について、新聞学研究所について、授業計画など
	事後学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
2	事前学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
	授業内容	新聞学研究所のプロジェクトについて① 過去のプロジェクト、研究所のTV映像アーカイブについて、など
	事後学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
3	事前学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
	授業内容	報告書の書き方① 報告会用資料、事後報告書
	事後学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)

4	事前学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
	授業内容	報告書の書き方② 報告会用資料、事後報告書
	事後学習	『ジャーナリズム&メディア』のバックナンバーを参照し、過去のプロジェクトや研究指導を確認する。(60分)
5	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加①
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
6	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加②
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
7	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加③
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
8	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加④
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
9	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加⑤
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
10	事前学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事前学習(60分)
	授業内容	合同演習参加⑥
	事後学習	プロジェクト(研究指導)の指示による事後学習(120分)
11	事前学習	報告用資料作成(120分)
	授業内容	合同演習事後報告① 演習での成果の報告会
	事後学習	事後報告書作成(60分)
12	事前学習	報告用資料書作成(120分)
	授業内容	合同演習事後報告② 演習での成果の報告会
	事後学習	事後報告書作成(60分)
13	事前学習	報告用資料作成(60分)
	授業内容	合同演習事後報告③ 演習での成果の報告会
	事後学習	事後報告書作成(60分)
14	事前学習	報告用資料作成(60分)
	授業内容	合同演習事後報告③ 演習での成果の報告会
	事後学習	事後報告書作成(60分)
15	事前学習	事後報告書作成(60分)
	授業内容	まとめと反省
	事後学習	事後報告書のまとめ(180分)

科目名	文献研究(英) I	担当者	塚本 晴二郎	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズムの古典的なテキストクリフォード・クリスチャンズ他のMedia Ethics第11版のIntroductionからThe Commercialization of Everyday Lifeまでを読む。				
授業目的・到達目標	研究論文を正確に読み、使用されている概念等を把握する。 関連するDP・CP6。				
履修条件	特になし				
授業方法	輪読を中心にディスカッションも行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	講義に臨む姿勢・積極性等を総合的に判断する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2020	Routledge		Media Ethics 11th ed.	Cliffoerd G. Christiana, et al.
	備考				
参考書	適宜に指示する。				
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み あるいはメールにて予約 tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの輪読部分の内容について理解しておく。(2時間)
	授業内容	テキストの輪読部分の概要を説明する。
	事後学習	テキストの輪読部分の概要を整理しておき、次回からの輪読に繋げる。(2時間)
2	事前学習	Introductionを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Introductionの輪読。
	事後学習	Introductionの内容の確認。(2時間)
3	事前学習	Institutional Pressuresを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Institutional Pressuresの輪読。
	事後学習	Institutional Pressuresの内容の確認。(2時間)

4	事前学習	Institutional Pressuresに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Institutional Pressuresに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
5	事前学習	Truthtellingを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Truthtellingの輪読。
	事後学習	Truthtellingの内容の確認。(2時間)
6	事前学習	Truthtellingに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Truthtellingに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
7	事前学習	Reporters and Sourcesを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Reporters and Sourcesの輪読。
	事後学習	Reporters and Sourcesの内容の確認。(2時間)
8	事前学習	Reporters and Sourcesに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Reporters and Sourcesに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
9	事前学習	Social justiceを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Social justiceの輪読。
	事後学習	Social justiceの内容の確認。(2時間)
10	事前学習	Social justiceに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Social justiceに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
11	事前学習	Privacyを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Privacyの輪読。
	事後学習	Privacyの内容の確認。(2時間)
12	事前学習	Privacyに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Privacyに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
13	事前学習	The Commercialization of Everyday Lifeを予習しておく。(2時間)
	授業内容	The Commercialization of Everyday Lifeの輪読。
	事後学習	The Commercialization of Everyday Lifeの内容の確認。(2時間)
14	事前学習	The Commercialization of Everyday Lifeに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	The Commercialization of Everyday Lifeに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
15	事前学習	すべての講義を通しての質問事項をまとめておく。(2時間)
	授業内容	総括と質疑応答。
	事後学習	他の人のものも含めて質疑応答の内容と総括の内容を理解しておく。(2時間)

科目名	文献研究(中) I	担当者	石川 徳幸	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	中古中国語は東アジアの漢字文化圏を形成し、日本を含む周辺諸国の思想や文化に多大な影響を及ぼした。古来、日本では中国語の文章である漢文を、原文に則して日本語に翻訳する訓読という方法によって、中国語の文献を理解してきた。本講義では、基本的な漢文訓読法を修得して漢籍（前近代の古典籍）を読み下せるようになる技能を身につけるとともに、近代における漢文史料の解説を通して日中関係の知識と学問的態度を修得することを目的とする。				
授業目的・到達目標	前期においては、漢籍の解説を通して基本的な漢文訓読の語法を身につける。 後期においては、前期に修得した技能を駆使して、近代における漢文史料の解説を行う。具体的には、中国語新聞『申報』の論説記事、雑誌『東洋』に掲載された漢文論説などを解説する。 これらの文献研究を通して、漢文訓読の技能・近代日本における日中関係と中国語理解に関する知識・外国語文献に対する学問的態度を涵養する。 【関連するDP・CP：6】				
履修条件	中国語を第一外国語ないし第二外国語とする者（中国語を母国語とする者は、(日)(英)(独)(仏)いずれかの文献研究を履修すること）。				
授業方法	受講者は、事前に提示された課題を日本語に読み下し、その意味について歴史的背景を調べたうえで発表する。受講生同士と教員によるディスカッションを通じて、原文に対するより正確な理解に努める。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	出席しての輪読・日訳、および議論参与を評価対象とする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016	三省堂		全訳漢辞海 第四版	戸川芳郎ほか
	備考	上記のもの以外でも構わないが中型以上の漢和辞典を用意すること。			
参考書	古田島洋介ほか（2011）『漢文訓読入門』明治書院 古田島洋介（2013）『日本近代史を学ぶための文語文入門：漢文訓読体の地平』吉川弘文館				
オフィスアワー	【2024年度オフィスアワー】授業実施期間中の月曜日12:15～12:45 【アポイント等・問い合わせ方法】 https://sites.google.com/seminar.ishikawa.jp/lab/contact （研究室HPメールフォーム）※会議などの校務があるときは研究室不在となるため事前予約を取ることが望ましい。また、同時刻に訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通し、「授業目的・到達目標」を把握しておくこと。
	授業内容	初回ガイダンス：授業の進め方、予習復習の仕方について
	事後学習	ガイダンスの内容に即して学習計画を立て、課題に取り組む。
2	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	漢文法の基礎①
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
3	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	漢文法の基礎②
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】

4	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	漢文法の基礎③
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
5	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	漢文法 助動詞①
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
6	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	漢文法 助動詞②
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
7	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	漢文法 副詞①
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
8	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	漢文法 副詞②
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
9	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	漢文法 前置詞①
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
10	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	漢文法 前置詞②
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
11	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	漢文法 接続詞
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
12	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	漢文法 動詞
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
13	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	漢文法 助詞
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
14	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	漢文法 名詞・代名詞
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
15	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	漢文法 品詞の活用
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】

科目名	文献研究(独) I	担当者	塚本 晴二郎	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	ユルゲン・ハーバーマスのStrukturwandel der ÖffentlichkeitのVorwort zur Neuauflage 1990から第6節までを読む。					
授業目的・到達目標	研究論文を正確に読み、使用されている概念等を把握する。 関連するDP・CP6。					
履修条件	特になし					
授業方法	輪読を中心にディスカッションも行う。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		講義に臨む姿勢・積極性等を総合的に判断する。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	1990	Suhrkamp		Strukturwandel der Öffentlichkeit		Jürgen Habermas
	備考					
参考書	適宜に指示する。					
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み あるいはメールにて予約 tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの輪読部分の内容について理解しておく。(2時間)
	授業内容	テキストの輪読部分の概要を説明する。
	事後学習	テキストの輪読部分の概要を整理しておき、次回からの輪読に繋げる。(2時間)
2	事前学習	Vorwort zur Neuauflage 1990を予習しておく。(2時間)
	授業内容	Vorwort zur Neuauflage 1990の輪読。
	事後学習	Vorwort zur Neuauflage 1990の内容の確認。(2時間)
3	事前学習	第1節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第1節の輪読。
	事後学習	第1節の内容の確認。(2時間)

4	事前学習	第1節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第1節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
5	事前学習	第2節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第2節の輪読。
	事後学習	第2節の内容の確認。(2時間)
6	事前学習	第2節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第2節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
7	事前学習	第3節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第3節の輪読。
	事後学習	第3節の内容の確認。(2時間)
8	事前学習	第3節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第3節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
9	事前学習	第4節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第4節の輪読。
	事後学習	第4節の内容の確認。(2時間)
10	事前学習	第4節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第4節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
11	事前学習	第5節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第5節の輪読。
	事後学習	第5節の内容の確認。(2時間)
12	事前学習	第5節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第5節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
13	事前学習	第6節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第6節の輪読。
	事後学習	第6節の内容の確認。(2時間)
14	事前学習	第6節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第6節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
15	事前学習	すべての講義を通しての質問事項をまとめておく。(2時間)
	授業内容	総括と質疑応答。
	事後学習	他の人のものも含めて質疑応答の内容と総括の内容を理解しておく。(2時間)

科目名	文献研究(日) I	担当者	佐幸 信介	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディア研究の基本文献のテキスト・クリティークをとおして、メディア研究の基本的知識、認識、方法論を学ぶ			
授業目的・到達目標	メディア研究にとって複数の基本的な文献を、的確に読み、まとめ、議論に生かす能力を習得することが目的である。その成果を、レポートとしてまとめる。 関連するD P ・ C P 6			
履修条件	特になし			
授業方法	テキスト読解、レジュメ作成、報告、ディスカッションの形式で行う			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験		0%	
	平 常 評 価		100%	毎回のレジュメ作成、報告は必須。最終的に、授業内レポートを課す
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2009	書籍工房早山	定本 想像の共同体	ベネディクト・アンダーソン
	備考			
参 考 書	その他、講義内で適宜紹介する			
オフィスアワー	メールにて連絡すること sako.shinsuke@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでおくこと（1時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	第2回目のテキストを精読しておくこと（2時間）
2	事前学習	テキストを精読し、レジメを作成する（3時間）
	授業内容	『想像の共同体』序章
	事後学習	レジメ・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
3	事前学習	テキストを精読し、レジメを作成する（3時間）
	授業内容	『想像の共同体』第1章
	事後学習	レジメ・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）

4	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	『想像の共同体』第2章
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
5	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	『想像の共同体』第3章
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
6	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	『想像の共同体』第4章
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
7	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	『想像の共同体』第5章
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
8	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	『想像の共同体』第6章
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
9	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	『想像の共同体』第7章
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
10	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	『想像の共同体』第8章
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
11	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	『想像の共同体』第9章
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
12	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	『想像の共同体』第10章
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
13	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	『想像の共同体』第11章
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
14	事前学習	レポートを作成する（3時間）
	授業内容	レポートの報告と合評
	事後学習	合評を受けて、レポートを再検討する
15	事前学習	第1回～14回を振り返り、復習する（2時間）
	授業内容	前期のまとめ
	事後学習	全体の復習（2時間）

科目名	文献研究(日) I	担当者	米倉 律	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズムおよび社会学の研究を進めていくうえで基本となる文献（書籍、論文）を購読し、研究に必要な専門的知識を身に付けるとともに方法論についても習得する。			
授業目的・到達目標	日本語でジャーナリズムおよび社会学の関連文献と論文を購読する。専門文献を読み解くことで、日本語に馴染むだけでなく社会科学における日本語表現を身に付ける。 関連するD P ・ C P 6			
履修条件	特に無いが、日常的に日本語の文献を読むこと。読んだものを纏めることが常に求められる。			
授業方法	日本語文献（書籍、論文）を輪読し、内容を報告する。さらにその内容に関するレポートを提出し、討論をする。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験			
	平 常 評 価		100%	ふだんの発表、討議への参加度など
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2006	勁草書房	ジャーナリズムとメディア言説	大石裕
	備考			
参 考 書	上記文献に関連する参考文献を適宜、指示する			
オフィス アワー	水曜日昼休み。研究室は本館1719号室。メールで事前予約を取って欲しい。 メールアドレス：yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの内容を読んでおく（30分以上）
	授業内容	前期全体のガイダンス、およびイントロダクション
	事後学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
2	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	拡大する政治とジャーナリズム①
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
3	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	拡大する政治とジャーナリズム②
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）

4	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	日本のジャーナリズム論の現代的課題①
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
5	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	日本のジャーナリズム論の現代的課題②
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
6	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	客観報道とニュース・バリュー①
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
7	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	客観報道とニュース・バリュー②
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
8	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	アジェンダ設定と「社会的現実」の構築①
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
9	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	アジェンダ設定と「社会的現実」の構築②
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
10	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	ニュースの言説分析①
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
11	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	ニュースの言説分析②
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
12	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	集合的記憶とマス・メディア①
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
13	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	集合的記憶とマス・メディア②
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
14	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	メディア・イベントの政治学①
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
15	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	メディア・イベントの政治学②
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）

科目名	文献研究(仏) I	担当者	小林 義寛	期間	前期	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディア研究、ジャーナリズム研究に関するフランス語文献を講読し、それを日本語として理解する。				
授業目的・到達目標	フランス語でメディア研究、ジャーナリズム研究および社会学の関連文献と論文を講読する。フランス語の専門文献を読み解き、日本語に翻訳することを通して、日本語表現を身に付けることにもなる。 フランス語の学術文献を日本語に翻訳できるようになる。 関連するDP・CP新聞学研究科DP・CP6				
履修条件	とくになし。				
授業方法	フランス語文献（論文、著書）を輪読し、内容を報告する。さらにその内容に関するレポートを提出し、討論をする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業時での発表および課題レポートの成果。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	受講生のフランス語能力に合わせて、オンライン上の無料フランス語学術文献を選択する。			
参考書	受講生のフランス語能力にに合わせて、授業時に適宜指示する。				
オフィスアワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認しておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス この授業について、授業計画など フランス語能力の確認、フランス語文献について
	事後学習	授業時に指示されたアドレスで、複数のフランス語文献の概略を確認する。（60分）
2	事前学習	指示されたフランス語文献をのabstractを確認する。（60分）
	授業内容	文献の選択 テキストとして使用するフランス語文献の選択
	事後学習	フランス語文献をダウンロードし、内容全体を確認しておく。（60分）
3	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）

4	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
5	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
6	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
7	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
8	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
9	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
10	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
11	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
12	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
13	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
14	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
15	事前学習	使用テキスト全体の翻訳をまとめる（120分）
	授業内容	まとめと課題提示
	事後学習	テキストの翻訳部分をまとめ、内容の議論をレポートとして作成する。（180分）

科目名	文献研究(英)Ⅱ	担当者	塚本 晴二郎	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズムの古典的なテキストクリフォード・クリスチャンズ他のMedia Ethics第11版のThe Media and CommercialからMedia Scope and Depthまでを読む。				
授業目的・到達目標	研究論文を正確に読み、使用されている概念等を把握する。 関連するDP・CP6。				
履修条件	文献研究（英）Ⅰの単位取得者であること。				
授業方法	輪読を中心にディスカッションも行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	講義に臨む姿勢・積極性等を総合的に判断する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2020	Routledge		Media Ethics 11th ed.	Clifford G. Christians, et al.
	備考				
参 考 書	適宜に指示する				
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み あるいはメールにて予約 tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの輪読部分の内容について理解しておく。(2時間)
	授業内容	テキストの輪読部分の概要を説明する。
	事後学習	テキストの輪読部分の概要を整理しておき、次回からの輪読に繋げる。(2時間)
2	事前学習	The Media and Commercialを予習しておく。(2時間)
	授業内容	The Media and Commercialの輪読。
	事後学習	The Media and Commercialの内容の確認。(2時間)
3	事前学習	The Media and Commercialに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	The Media and Commercialに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)

4	事前学習	Public communicationを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Public communicationの輪読。
	事後学習	Public communicationの内容の確認。(2時間)
5	事前学習	Public communicationに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Public communicationに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
6	事前学習	Conflicting Loyaltiesを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Conflicting Loyaltiesの輪読。
	事後学習	Conflicting Loyaltiesの内容の確認。(2時間)
7	事前学習	Conflicting Loyaltiesに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Conflicting Loyaltiesに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
8	事前学習	Violenceを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Violenceの輪読。
	事後学習	Violenceの内容の確認。(2時間)
9	事前学習	Violenceに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Violenceに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
10	事前学習	Profits, Wealth, and Public Trustを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Profits, Wealth, and Public Trustの輪読。
	事後学習	Profits, Wealth, and Public Trustの内容の確認。(2時間)
11	事前学習	Profits, Wealth, and Public Trustに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Profits, Wealth, and Public Trustに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
12	事前学習	Media Scope and Depthを予習しておく。(2時間)
	授業内容	Media Scope and Depthの輪読。
	事後学習	Media Scope and Depthの内容の確認。(2時間)
13	事前学習	Media Scope and Depthに関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	Media Scope and Depthに関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
14	事前学習	文献研究（英）Ⅰも含めての輪読部分で、一番興味もったテーマについての発表を準備する。(2時間)
	授業内容	文献研究（英）Ⅰも含めての輪読部分で、一番興味もったテーマについての発表とコメント。
	事後学習	文献研究（英）Ⅰも含めての輪読部分で、一番興味もったテーマについての発表に対するコメントをの内容の確認。(2時間)
15	事前学習	すべての講義を通しての質問事項をまとめておく。(2時間)
	授業内容	総括と質疑応答
	事後学習	他の人のものも含めて質疑応答の内容と総括の内容を理解しておく。(2時間)

科目名	文献研究(中)Ⅱ	担当者	石川 徳幸	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	中古中国語は東アジアの漢字文化圏を形成し、日本を含む周辺諸国の思想や文化に多大な影響を及ぼした。古来、日本では中国語の文章である漢文を、原文に則して日本語に翻訳する訓読という方法によって、中国語の文献を理解してきた。本講義では、基本的な漢文訓読法を修得して漢籍（前近代の古典籍）を読み下せるようになる技能を身につけるとともに、近代における漢文史料の解説を通して日中関係の知識と学問的態度を修得することを目的とする。				
授業目的・到達目標	前期においては、漢籍の解説を通して基本的な漢文訓読の語法を身につける。 後期においては、前期に修得した技能を駆使して、近代における漢文史料の解説を行う。具体的には、中国語新聞『申報』の論説記事、雑誌『東洋』に掲載された漢文論説などを解説する。 これらの文献研究を通して、漢文訓読の技能・近代日本における日中関係と中国語理解に関する知識・外国語文献に対する学問的態度を涵養する。 【関連するDP・CP：6】				
履修条件	中国語を第一外国語ないし第二外国語とする者（中国語を母国語とする者は、(日)(英)(独)(仏)いずれかの文献研究を履修すること）。				
授業方法	受講者は、事前に提示された課題を日本語に読み下し、その意味について歴史的背景を調べたうえで発表する。受講生同士と教員によるディスカッションを通じて、原文に対するより正確な理解に努める。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	出席しての輪読・日訳、および議論参与を評価対象とする。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2016	三省堂		全訳漢辞海 第四版	戸川芳郎ほか
	備考	上記のもの以外でも構わないが中型以上の漢和辞典を用意すること。			
参考書	古田島洋介ほか（2011）『漢文訓読入門』明治書院 古田島洋介（2013）『日本近代史を学ぶための文語文入門：漢文訓読体の地平』吉川弘文館				
オフィスアワー	【2024年度オフィスアワー】授業実施期間中の月曜日12:15～12:45 【アポイント等・問い合わせ方法】 https://sites.google.com/seminar.ishikawa.jp/lab/contact （研究室HPメールフォーム）※会議などの校務があるときは研究室不在となるため事前予約を取ることが望ましい。また、同時刻に訪問者が重なった場合は、予約を入れていた者を優先する。				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスに目を通し、「授業目的・到達目標」を把握しておくこと。
	授業内容	初回ガイダンス：授業の進め方、予習復習の仕方について
	事後学習	ガイダンスの内容に即して学習計画を立て、課題に取り組む。
2	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	雑誌『東洋』解説
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
3	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	雑誌『東洋』解説
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】

4	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	雑誌『東洋』解説
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
5	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	雑誌『東洋』解説
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
6	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	雑誌『東洋』解説
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
7	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	新聞『申報』解説
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
8	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	新聞『申報』解説
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
9	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	新聞『申報』解説
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
10	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	新聞『申報』解説
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
11	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	新聞『申報』解説
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
12	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	漢詩による時事評論『評林』の解説
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
13	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	漢詩による時事評論『評林』の解説
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
14	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	漢詩による時事評論『評林』の解説
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】
15	事前学習	課題を読み下し、日本語訳に直す。【120分】
	授業内容	漢詩による時事評論『評林』の解説
	事後学習	講義内容をノートに整理し、理解を深める。【60分】

科目名	文献研究(独)Ⅱ	担当者	塚本 晴二郎	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	ユルゲン・ハーバーマスのStrukturwandel der Öffentlichkeitの第7節から第12節までを読む。				
授業目的・到達目標	研究論文を正確に読み、使用されている概念等を把握する。 関連するDP・CP6。				
履修条件	文献研究（英）Ⅰの単位取得者であること。				
授業方法	輪読を中心にディスカッションも行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	講義に臨む姿勢・積極性等を総合的に判断する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	1990	Suhrkamp		Strukturwandel der Öffentlichkeit	Jürgen Habermas
	備考				
参 考 書	適宜に指示する				
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み あるいはメールにて予約 tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	テキストの輪読部分の内容について理解しておく。(2時間)
	授業内容	テキストの輪読部分の概要を説明する。
	事後学習	テキストの輪読部分の概要を整理しておき、次回からの輪読に繋げる。(2時間)
2	事前学習	第7節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第7節の輪読。
	事後学習	第7節の内容の確認。(2時間)
3	事前学習	第7節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第7節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)

4	事前学習	第8節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第8節の輪読。
	事後学習	第8節の内容の確認。(2時間)
5	事前学習	第8節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第8節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
6	事前学習	第9節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第9節の輪読。
	事後学習	第9節の内容の確認。(2時間)
7	事前学習	第9節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第9節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
8	事前学習	第10節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第10節の輪読。
	事後学習	第10節の内容の確認。(2時間)
9	事前学習	第10節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第10節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
10	事前学習	第11節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第11節の輪読。
	事後学習	第11節の内容の確認。(2時間)
11	事前学習	第11節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第11節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
12	事前学習	第12節を予習しておく。(2時間)
	授業内容	第12節の輪読。
	事後学習	第12節の内容の確認。(2時間)
13	事前学習	第12節に関する意見をまとめておく。(2時間)
	授業内容	第12節に関するディスカッションを行う。
	事後学習	ディスカッションの内容を整理しておく。(2時間)
14	事前学習	文献研究（英）Ⅰも含めての輪読部分で、一番興味もったテーマについての発表を準備する。(2時間)
	授業内容	文献研究（英）Ⅰも含めての輪読部分で、一番興味もったテーマについての発表とコメント。
	事後学習	文献研究（英）Ⅰも含めての輪読部分で、一番興味もったテーマについての発表に対するコメントをの内容の確認。(2時間)
15	事前学習	すべての講義を通しての質問事項をまとめておく。(2時間)
	授業内容	総括と質疑応答
	事後学習	他の人のものも含めて質疑応答の内容と総括の内容を理解しておく。(2時間)

科目名	文献研究(日)Ⅱ	担当者	佐幸 信介	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディア研究の基本文献のテキスト・クリティークをとおして、メディア研究の基本的知識、認識、方法論を学ぶ			
授業目的・到達目標	メディア研究にとって複数の基本的な文献を、的確に読み、まとめ、議論に生かす能力を習得することが目的である。その成果を、レポートとしてまとめる。 関連するD P ・ C P 6			
履修条件	特になし			
授業方法	テキスト読解、レジюме作成、報告、ディスカッションの形式で行う			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定 期 試 験	0%		
	平 常 評 価	100%	毎回のレジюме作成、報告は必須。最終的に、授業内レポートを課す	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2020	ミネルヴァ書房	テレビジョン	レイモンド・ウィリアムズ
	備考			
参 考 書	その他、講義内で適宜紹介する			
オフィスアワー	メールにて連絡すること sako.shinsuke@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを読んでおくこと（1時間）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	テキストを精読しておくこと（2時間）
2	事前学習	テキストを精読し、レジメを作成する（3時間）
	授業内容	ウィリアムズ『テレビジョン』第1章・読解と報告
	事後学習	レジメ・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
3	事前学習	テキストを精読し、レジメを作成する（3時間）
	授業内容	ウィリアムズ『テレビジョン』第1章・読解と報告
	事後学習	レジメ・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）

4	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	ウィリアムズ『テレビジョン』第2章・読解と報告
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
5	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	ウィリアムズ『テレビジョン』第2章・読解と報告
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
6	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	ウィリアムズ『テレビジョン』第3章・読解と報告
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
7	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	ウィリアムズ『テレビジョン』第3章・読解と報告
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
8	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	ウィリアムズ『テレビジョン』第4章・読解と報告
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
9	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	ウィリアムズ『テレビジョン』第4章・読解と報告
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
10	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	ウィリアムズ『テレビジョン』第5章・読解と報告
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
11	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	ウィリアムズ『テレビジョン』第5章・読解と報告
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
12	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	ウィリアムズ『テレビジョン』第6章・読解と報告
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
13	事前学習	テキストを精読し、レジюмеを作成する（3時間）
	授業内容	ウィリアムズ『テレビジョン』第6章・読解と報告
	事後学習	レジюме・ディスカッションをふまえ、再度テキストを精読すること（2時間）
14	事前学習	レポートを作成する（3時間）
	授業内容	レポートの報告と合評
	事後学習	合評を受けて、レポートを再検討する
15	事前学習	第1回～14回を振り返り、復習する（2時間）
	授業内容	後期のまとめ
	事後学習	全体の復習（2時間）

科目名	文献研究(日)Ⅱ	担当者	米倉 律	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	ジャーナリズムおよび社会学の研究を進めていくうえで基本となる文献（書籍、論文）を購読し、研究に必要な専門的知識を身に付けるとともに方法論についても習得する。				
授業目的・到達目標	日本語でジャーナリズムおよび社会学の関連文献と論文を購読する。専門文献を読み解くことで、日本語に馴染むだけでなく社会科学における日本語表現を身に付ける。 関連するD P・C P 6				
履修条件	特に無いが、日常的に日本語の文献を読むこと。読んだものを纏めることが常に求められる。				
授業方法	日本語文献（書籍、論文）を輪読し、内容を報告する。さらにその内容に関するレポートを提出し、討論をする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	ふだんの発表、討議への参加度など	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	2020	東京大学出版会		日本のテレビ・ドキュメンタリー	丹羽美之
	備考				
参 考 書	上記文献に関連する参考文献を適宜、指示する				
オフィスアワー	水曜日昼休み。研究室は本館1719号室。メールで事前にアポイントを取って欲しい。 メールアドレス：yonekura.ritsu@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	イントロダクション
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
2	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	テレビ・アーカイブへの扉を開く①
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）
3	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（30分以上）
	授業内容	テレビ・アーカイブへの扉を開く②
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（30分以上）

4	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	記録映画との決別①
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
5	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	記録映画との決別②
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
6	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	牛山純一と『ノンフィクション劇場』①
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
7	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	牛山純一と『ノンフィクション劇場』②
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
8	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	萩元晴彦・村木良彦と『あなたは』①
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
9	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	萩元晴彦・村木良彦と『あなたは』②
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
10	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	田原総一郎と『ドキュメンタリー劇場』①
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
11	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	田原総一郎と『ドキュメンタリー劇場』②
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
12	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	木村宋文と『あいらぶ優ちゃん』
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
13	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	磯野恭子と『NNNドキュメント』
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
14	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	是枝裕和と『NONFIX』
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）
15	事前学習	指定された章の読了と概要の日本語文章化（３０分以上）
	授業内容	震災ドキュメンタリー論
	事後学習	授業時に指摘された内容の確認と次回との接続を考える（３０分以上）

科目名	文献研究(仏)Ⅱ	担当者	小林 義寛	期間	後期	単位数	1
-----	----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディア研究、ジャーナリズム研究に関するフランス語文献を講読し、それを日本語として理解する。				
授業目的・到達目標	フランス語でメディア研究、ジャーナリズム研究および社会学の関連文献と論文を講読する。フランス語の専門文献を読み解き、日本語に翻訳することを通して、日本語表現を身に付けることにもなる。 フランス語の学術文献を日本語に翻訳できるようになる。 関連するDP・CP新聞学研究科DP・CP6				
履修条件	とくになし。				
授業方法	フランス語文献（論文、著書）を輪読し、内容を報告する。さらにその内容に関するレポートを提出し、討論をする。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業時での発表および課題レポートの成果。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	受講生のフランス語能力に合わせて、オンライン上の無料フランス語学術文献を選択する。			
参考書	受講生のフランス語能力にに合わせて、授業時に適宜指示する。				
オフィスアワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認しておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス この授業について、授業計画など フランス語能力の確認、フランス語文献について
	事後学習	授業時に指示されたアドレスで、複数のフランス語文献の概略を確認する。（60分）
2	事前学習	指示されたフランス語文献をのabstractを確認する。（60分）
	授業内容	文献の選択 テキストとして使用するフランス語文献の選択
	事後学習	フランス語文献をダウンロードし、内容全体を確認しておく。（60分）
3	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）

4	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
5	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
6	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
7	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
8	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
9	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
10	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
11	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
12	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
13	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
14	事前学習	テキストの当日使用部分を日本語に翻訳し、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	フランス語文献講読 日本語翻訳と議論
	事後学習	当日部分の日本語訳の問題点を復習し、内容を理解する。（120分）
15	事前学習	使用テキスト全体の翻訳をまとめる（120分）
	授業内容	まとめと課題提示
	事後学習	テキストの翻訳部分をまとめ、内容の議論をレポートとして作成する。（180分）

科目名	メディア研究特殊講義A	担当者	小林 義寛	期間	前期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディア現象をどのように研究するのか。その社会科学的なアプローチについて学修する。とくに、社会科学的な研究とはどのようなものか、その研究方法や論文の書き方などの基本的な所作について学修する。					
授業目的・到達目標	メディア現象に対して、社会科学的な方法に基づいて、理論的にアプローチする方法を身につける。 社会科学の論文の書き方を身につける。 研究とは何か、問題の立て方、研究の進め方を理解する。 自らの研究主題を構成し、研究計画を立てられるようになる。 論文やレポートを書けるようになる。 関連するDP・CP 新聞学研究科DP・CP 1, 2					
履修条件	とくになし。					
授業方法	教科書を使用し、指定された担当部分を報告した上で課題を提起する方法をとる。毎回レジュメを配布すること。					
成績評価	種別		割合		評価方法	
	定期試験					
	平常評価		100%		平常の授業における文献解題、報告、課題レポートの成果による。	
教科書	年	出版社		書名		著者名
	2022年	講談社（現代新書）		基礎からわかる論文の書き方		小熊英二
	備考	その他に関しては、授業時に相談する。				
参考書	授業時に適宜指示する。					
オフィスアワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro〇nihon-u.ac.jp					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認しておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業について、使用するテキストについて、授業計画など
	事後学習	自分の研究テーマを確認しておく。（60分）
2	事前学習	自分の研究テーマのレジュメを準備する。（60分）
	授業内容	研究テーマの確認 受講生の現在の暫定的な研究テーマの確認
	事後学習	テキストの次週使用部分を確認しておく。（60分）
3	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	テキスト1章、2章 論文とは何か、科学と論文
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。（60分）

4	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	テキスト3章、4章 主題と対象、はじめての調べ方
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。（60分）
5	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	テキスト5章、6章 方法論（調査設計）、先行研究と学問体系（ディシプリン）
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。（60分）
6	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	テキスト7章、8章 方法（メソッド）、研究計画書とプレゼンテーション
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。（60分）
7	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	テキスト9章、10章 構成と文章、注記と要約
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。（60分）
8	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	テキスト11章、12章 構成と仕上げ、おわりに
	事後学習	当日部分を理解し、テキスト全体を確認する。（180分）
9	事前学習	自分の研究テーマについてのレジюмеを作成する。（120分）
	授業内容	研究テーマの検討① テキストを前提に、受講生各自の研究テーマを再検討する。
	事後学習	テキストでの学習を振り返り、授業での議論をふまえて、研究テーマを再考する。（120分）
10	事前学習	自分の研究テーマについてのレジюмеを作成する。（120分）
	授業内容	研究テーマの検討② テキストを前提に、受講生各自の研究テーマを再検討する。
	事後学習	テキストを復讐し、研究計画を立てる。（120分）
11	事前学習	研究テーマと研究計画を確定し、レジюмеを作成する。（120分）
	授業内容	研究計画の検討① 研究テーマに合わせた研究計画の妥当性の検討をする。
	事後学習	研究テーマと研究計画を再検討する。（180分）
12	事前学習	再検討した研究テーマと研究計画をレジюме化する。（180分）
	授業内容	研究計画の検討② 再検討した研究テーマ、研究計画を検討する。
	事後学習	合同研究発表へ向けて、研究テーマと研究計画を中心にまとめる。（120分）
13	事前学習	合同発表用のレジюмеを作成し、発表の準備をおこなう。（180分）
	授業内容	プレゼンテーション演習① 合同発表会へ向けてのプレゼンテーション資料の検討、発表の演習
	事後学習	授業時の議論をもとに、資料等を再検討する。（120分）
14	事前学習	合同発表用のレジюмеを修正し、発表の準備をおこなう。（120分）
	授業内容	プレゼンテーション演習② 合同発表会へ向けてのプレゼンテーション資料の検討、発表の演習
	事後学習	授業時の議論をもとに、研究テーマ、研究計画、資料などを調整する。（180分）
15	事前学習	テキスト、授業時の議論、合同発表などをもとに、研究テーマなどを確定する。（180分）
	授業内容	まとめと反省 授業全体のまとめ、合同発表会の反省etc
	事後学習	全体を通じてのレポート作成。（180分）

科目名	メディア研究特殊講義B	担当者	小林 義寛	期間	後期	単位数	2
-----	-------------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディア現象をどのように研究するのか。その社会科学的なアプローチについて学修する。とくに、社会科学的な研究とはどのようなものか、その研究方法や論文の書き方などの基本的な所作について学修する。				
授業目的・到達目標	メディア現象に対して、社会科学的な方法に基づいて、理論的にアプローチする方法を身につける。 社会科学の論文の書き方を身につける。 研究とは何か、問題の立て方、研究の進め方を理解する。 自らの研究主題を構成し、研究計画を立てられるようになる。 論文やレポートを書けるようになる。 関連するDP・CP 新聞学研究科DP・CP 1, 2				
履修条件	とくになし。				
授業方法	教科書を使用し、指定された担当部分を報告した上で課題を提起する方法をとる。毎回レジュメを配布すること。 受講生の研究の進捗にあわせて、使用するテキストと研究テーマに関連する議論を受講生とともに、おこなう。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	平常の授業における文献解題、報告、課題レポートの成果による。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
					小熊英二
	備考	テキストに関しては授業時に相談し、決定する。			
参考書	授業時に適宜指示する。				
オフィスアワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro〇nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスを確認しておく。（30分）
	授業内容	ガイダンス 授業について、使用するテキストについて、授業計画など
	事後学習	自分の研究テーマと研究計画を確認しておく。（60分）
2	事前学習	合同発表会と長期休暇を経て現在までの研究の進展をまとめる。（60分）
	授業内容	研究の進捗報告とテキスト選定 受講生各自の現在の進捗状況の報告、テキストの決定
	事後学習	テキストの次週使用部分を確認しておく。（60分）
3	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	テキスト輪読
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。（60分）

4	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	テキスト輪読
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。（60分）
5	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	テキスト輪読
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。（60分）
6	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	テキスト輪読
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。（60分）
7	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	テキスト輪読
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。（60分）
8	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	テキスト輪読
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。（60分）
9	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	テキスト輪読
	事後学習	当日部分を理解し、次回分との関係を捉えておく。（60分）
10	事前学習	テキストの当日使用部分を読み、質問や議論のテーマを整理しておく。（60分）
	授業内容	テキスト輪読
	事後学習	当日部分を理解し、テキスト全体を確認する。（120分）
11	事前学習	研究経過をまとめ、発表用のレジュメを作成する。（120分）
	授業内容	プレゼンテーション① 研究経過をまとめ、発表する。
	事後学習	報告した発表内容を、授業での議論をふまえて構成し直す。（180分）
12	事前学習	研究経過をまとめ直し、今後の計画を立てる。（180分）
	授業内容	研究計画の検討② 研究経過の報告と今後の計画を再検討する。
	事後学習	合同研究発表へ向けて、研究の進捗と今後の計画をまとめる。（120分）
13	事前学習	合同発表用のレジュメを作成し、発表の準備をおこなう。（180分）
	授業内容	プレゼンテーション演習① 合同発表会へ向けてのプレゼンテーション資料の検討、発表の演習
	事後学習	授業時の議論をもとに、資料等を再検討する。（120分）
14	事前学習	合同発表用のレジュメを修正し、発表の準備をおこなう。（120分）
	授業内容	プレゼンテーション演習② 合同発表会へ向けてのプレゼンテーション資料の検討、発表の演習
	事後学習	授業時の議論をもとに、研究テーマ、研究計画、資料などを調整する。（180分）
15	事前学習	テキスト、授業時の議論、合同発表などをもとに、今後の研究計画などを確定する。（180分）
	授業内容	まとめと反省 授業全体のまとめ、合同発表会の反省etc
	事後学習	全体を通じてのレポート作成。（180分）

科目名	メディア特殊研究A	担当者	佐幸 信介	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディア研究をグローバリゼーションや資本主義のモードとの関連に位置づけ、テキスト・クリティークを通して現在のメディア状況の分析を行う			
授業目的・到達目標	学術的に書かれた論文を読み、メディア環境を理解すること。さらに論文の構成（目的・方法・分析等）そのものを理解すること。関連するDP・CP 1, 2			
履修条件	特に定めないが、難しめの論文を読むため、メディア研究に関する基本的な知識を持っていることが望ましい			
授業方法	義と教科書（テキスト）のレジュメ作成・発表・ディスカッションをひとつのユニットで構成して進める。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	0%		
	平常評価	100%	平常のレジュメ作成や授業の参加度に応じて評価する	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2019	東京大学出版会	コミュニケーション資本主義と〈コモン〉の探求	伊藤守編著
	2014	法政大学出版局	生そのものの政治学	ニコラス・ローズ
	備考			
参考書	適宜、提示する			
オフィスアワー	水曜日・昼休み 研究室 sako.shinsuke@nihon-u.ac.jp			

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの確認と教科書の内容を概観してくること（2時間）
	授業内容	ガイダンス（講義のスケジュール、発表担当の決定など）
	事後学習	ガイダンスをふまえ、あらためて教科書を読む（2時間）
2	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	デジタルメディア環境の生態系と言説空間の変容（第1章）の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
3	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	デジタルメディア環境の生態系と言説空間の変容（第1章）のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）

4	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	コミュニケーション資本主義における個人と集団の変容（第2章）の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
5	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	コミュニケーション資本主義における個人と集団の変容（第2章）のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
6	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	ソーシャルメディアはポピュリズムの夢を見るか？—コミュニケーション資本主義の条件（第3章）の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
7	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	ネットワークメディア時代における政治的公共圏の変容（第4章）
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
8	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第3章と第4章をめぐるディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
9	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	生かさない“生 - 政治”の誕生の再考（第5章）
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
10	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	スマートシティと生政治—パブリック - プライベートの産業からコミユナルな統治へむけて（第6章）
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
11	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第5章と第6章をめぐるディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
12	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	生資本主義時代の生と芸術（第7章）
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
13	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	デジタルメディア時代のジェンダーカ学—韓国のインターネット空間における「女性」（第8章）
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
14	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	資本主義リアリズムからアシッド共産主義へ（第9章）
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
15	事前学習	第14回までの講義内容をふりかえること（2時間）
	授業内容	講義全体のまとめ
	事後学習	講義全体をふりかえり、自分なりの見解をまとめること（2時間）

科目名	メディア特殊研究B	担当者	佐幸 信介	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	生命の情報化に関する議論を通して、現在のＩＣＴの社会的な分析を検討する							
授業目的・到達目標	学術的に書かれた論文を読み、メディア環境を理解すること。さらに論文の構成（目的・方法・分析等）そのものを理解すること。関連するDP・CP1							
履修条件	特に定めないが、難しめの論文を読むため、メディア研究に関する基本的な知識を持っていることが望ましい							
授業方法	講義と教科書（テキスト）のレジュメ作成・発表・ディスカッションをひとつのユニットで構成して進める。							
成績評価	種別		割合		評価方法			
	定期試験		0%					
	平常評価		100%		平常のレジュメ作成や授業の参加度に応じて評価する			
教科書	年		出版社		書名		著者名	
	2014		法政大学出版局		生そのものの政治学		ニコラス・ローズ	
	備考							
参考書	適宜、提示する							
オフィスアワー	水曜日・昼休み 研究室 sako.shinsuke@nihon-u.ac.jp							

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバスの確認と教科書の内容を概観してくること（２時間）
	授業内容	ガイダンス（講義のスケジュール、発表担当の決定など）
	事後学習	ガイダンスをふまえ、あらためて教科書を読む（２時間）
2	事前学習	該当章を精読すること（２時間）
	授業内容	日本語版への序文、謝辞、序章の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（２時間）
3	事前学習	該当章を精読すること（２時間）
	授業内容	第1章「二十一世紀における生政治」の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（２時間）

4	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第1章「二十一世紀における生政治」のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
5	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第2章「政治と生」の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
6	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第2章「政治と生」のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
7	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第3章「現れつつある生のかたち」の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
8	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第3章「現れつつある生のかたち」のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
9	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第4章「遺伝学的リスク」の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
10	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第4章「遺伝学的リスク」のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
11	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第5章「生物学的市民」の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
12	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第5章「生物学的市民」のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
13	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第6章「ゲノム医学の時代における人種」の読解
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
14	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第6章「ゲノム医学の時代における人種」のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）
15	事前学習	該当章を精読すること（2時間）
	授業内容	第8章「コントロールの生物学」のディスカッション
	事後学習	講義の内容・ディスカッションの内容を復習すること（2時間）

科目名	メディア特殊研究C	担当者	平井 智尚	期間	前期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディア研究を展開していくうえでは、同分野にかかわる学問的な系譜の把握が求められる。本授業ではメディア研究にかかわる基礎的な文献の講読を中心としながら、随時最新の研究動向にも目を配ることで、メディア研究を実践していくための素地を身につけていく。			
授業目的・到達目標	メディア研究の系譜、ならびに概念や理論を理解したうえで、関連する社会現象について受講者自身の言葉で説明できるようになることを到達目標とする。 関連するDP・CP：新聞学研究科1、3			
履修条件	メディア、コミュニケーション、コンテンツへの関心を持ち、これらの問題に社会科学の観点からアプローチする意欲を持っている。なお、授業への出席は必須となる。			
授業方法	教科書を使用する。担当者は指定個所のレジュメを作成し報告を行う。また、受講者全員による問題提起とディスカッションを行う。			
成績評価	種別		割合	評価方法
	定 期 試 験			
	平 常 評 価		100%	授業内における報告やディスカッション等をふまえて、到達目標にかかわる知識や積極的な学修態度が身についているかを評価する。
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2021	ミネルヴァ書房	ポストメディア・セオリーズ	伊藤守編
	2023	小島遊書房	ポップ・カルチャー批評の理論	ジョン・ストーリー
	2023	勁草書房	メディア化理論入門——政治から遊びまで	スティ・ヤーヴァード
	備考			
参 考 書	参考書は随時提示する。なお、英語の論文を扱うこともある			
オフィスアワー				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス等を確認し授業に備える（2時間）
	授業内容	イントロダクション：授業の概要、授業の進め方
	事後学習	教科書・参考書を揃え、目を通しておく（2時間）
2	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
3	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）

4	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
5	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
6	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
7	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
8	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
9	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
10	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
11	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
12	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
13	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
14	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
15	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	授業全体のまとめ：これまでの授業内容を整理し、改めて論点等の整理を行う
	事後学習	これまでの授業内容の整理、ノート作成等（2時間）

科目名	メディア特殊研究D	担当者	平井 智尚	期間	後期	単位数	2
-----	-----------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	メディア研究を展開していくうえでは、同分野にかかわる学問的な系譜の把握が求められる。本授業ではメディア研究にかかわる基礎的な文献の講読を中心としながら、随時最新の研究動向にも目を配ることで、メディア研究を実践していくための素地を身につけていく。				
授業目的・到達目標	メディア研究の系譜、ならびに概念や理論を理解したうえで、関連する社会現象について受講者自身の言葉で説明できるようになることを到達目標とする。 関連するDP・CP：新聞学研究科1、3				
履修条件	メディア、コミュニケーション、コンテンツへの関心を持ち、これらの問題に社会科学の観点からアプローチする意欲を持っている。なお、授業への出席は必須となる。				
授業方法	教科書を使用する。担当者は指定個所のレジュメを作成し報告を行う。また、受講者全員による問題提起とディスカッションを行う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験				
	平常評価		100%	授業内における報告やディスカッション等をふまえて、到達目標にかかわる知識や積極的な学修態度が身についているかを評価する。	
教科書	年	出版社	書名		著者名
	2021	ミネルヴァ書房	ポストメディア・セオリーズ		伊藤守編
	2023	小島遊書房	ポップ・カルチャー批評の理論		ジョン・ストーリー
	2023	勁草書房	メディア化理論入門——政治から遊びまで		スティ・ヤーヴァード
	備考				
参考書	参考書は随時提示する。なお、英語の論文を扱うこともある				
オフィスアワー					

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	シラバス等を確認し授業に備える（2時間）
	授業内容	イントロダクション：授業の概要、授業の進め方
	事後学習	教科書・参考書を揃え、目を通しておく（2時間）
2	事前学習	教科書・参考書を通じた予習・質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
3	事前学習	教科書・参考書を通じた予習・質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）

4	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
5	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
6	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
7	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
8	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
9	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
10	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
11	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
12	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
13	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
14	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	メディア研究に関連する文献の講読・報告・ディスカッション
	事後学習	授業内容の復習と次回授業の準備（2時間）
15	事前学習	教科書・参考書を通じた予習、質問・議論の整理（2時間）
	授業内容	授業全体のまとめ：これまでの授業内容を整理し、改めて論点等の整理を行う
	事後学習	これまでの授業内容の整理、ノート作成等（2時間）

科目名	論文指導Ⅰ～Ⅳ	担当者	小林 義寛	期間	通年	単位数	1
-----	---------	-----	-------	----	----	-----	---

授業概要	学位論文作成のため、アプローチ、テーマ設定、先行研究のレビュー、論文構成、などの重要な手続や方法を学修する。その際、テーマに関わる資料の収集はもとより、資料・文献の読み込み方、関連する先行研究の整理など、具体的に学術論文を作成する手続や技法を学修する。				
授業目的・到達目標	論文作成の諸過程において、研究の進捗状況に関する報告を義務づけ、過程に応じた指導を行う。その結果として、修士論文を完成すること（社会科学における修士論文は感想文ではないことが前提である）。 関連するDP・CP 新聞学研究科 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8				
履修条件	社会学、文化理論、メディア理論の基礎知識を修得済みの者。				
授業方法	講義と演習を併用した形式で行う。履修者の学問関心を優先し、当該関心を社会科学における論文とする方途を指示する。科学性と論理性を常に問う。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	平生の発表内容と最終論文の成果内容	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	とくにない。			
参 考 書	適宜指示する。				
オフィス アワー	火曜日6限を基本とするが、メールにて確認を。kobayashi.yoshihiro〇nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	研究テーマを明確にしておく。（1時間以上）
	授業内容	ガイダンス
	事後学習	年間スケジュールのなかで、研究の進行過程を位置づける。（1時間以上）
2～4	事前学習	研究テーマ、問題意識、方法を確認する。（1時間以上）
	授業内容	研究の目的の設定 方法論の検討 先行研究の検討
	事後学習	研究テーマに即して方法論の検討、先行研究の探索をおこなう。（1時間以上）
5～12	事前学習	問題意識を明確にしておく。（1時間以上）
	授業内容	仮説ないしは問題意識の再確認 研究テーマの決定 論文概要の中間報告 1
	事後学習	中間報告での問題点、不足点などを確認し、修正や深化へむけて展開する。（1時間以上）

13～20	事前学習	研究テーマ、方法論、章立てなどを明確にする。（１時間以上）
	授業内容	論文指導
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。（１時間以上）
21～30	事前学習	現状の到達点を整理しておく。（１時間以上）
	授業内容	論文指導 中間報告 2
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。（１時間以上）
31～34	事前学習	章立てに合わせた展開を整理する。（１時間以上）
	授業内容	論文指導
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。（１時間以上）
35～41	事前学習	章立てに合わせた展開を整理する。（１時間以上）
	授業内容	論文指導
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。（１時間以上）
42～45	事前学習	章立てに合わせた展開を整理する。（１時間以上）
	授業内容	論文指導 中間報告 3
	事後学習	問題点を整理し、深化、展開を図る。（１時間以上）
46～54	事前学習	具体的な執筆上の問題点の整理。（１時間以上）
	授業内容	論文指導
	事後学習	執筆。（１時間以上）
55～58	事前学習	具体的な執筆上の問題点の整理。（１時間以上）
	授業内容	論文指導
	事後学習	執筆。（１時間以上）
59～60	事前学習	具体的な執筆上の問題点の整理。（１時間以上）
	授業内容	論文指導 論文の完成、報告
	事後学習	口頭試問へむけての準備。（１時間以上）

科目名	論文指導Ⅰ～Ⅳ	担当者	塚本 晴二郎	期間	通年	単位数	1
-----	---------	-----	--------	----	----	-----	---

授業概要	研究テーマに関わる資料の収集はもとより、資料・文献の読み込み方、関連する先行研究の整理など、具体的に学術論文を作成する手続や技法を指導する。また論文作成の諸過程において、研究の進捗状況に関する報告を義務づけ、過程に応じた指導を行い修士論文の完成につなげる。				
授業目的・到達目標	新聞学における理論、制度、歴史研究の基幹研究部門の専門知だけでなく、広く社会環境やメディア環境に影響を与えている関連法制や関連政策などに関する知識を習得することを目的とする。 2年間の知識の蓄積や能力の育成を通して、批判的な思考力に基づく問題の分析能力や解決能力だけでなく、高度な倫理観を育んだことを例証することを目標とする。関連するDP・CP新聞学研究科1、2、3、4、5、6、7、8				
履修条件	ジャーナリズムの規範理論を自らの専門領域にしようと思う者のみに履修してもらいたい。				
授業方法	修士論文を作成する。教員の指導、受講者の発表、両者で協力しての修士論文の作成といった手順で、進めていく。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定 期 試 験				
	平 常 評 価		100%	修士論文の完成度100%。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし。			
参 考 書	適宜指示する。				
オフィスアワー	毎週月曜日昼休み　あるいはメールにて予約　tsukamoto.seijiro@nihon-u.ac.jp				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	自身の研究計画を明確に説明できるようにする。（60分以上）
	授業内容	修士論文完成までのスケジュールを説明するとともに、受講者の研究計画を確認する。
	事後学習	指導内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。（60分以上）
2～4	事前学習	質問事項の整理、および先行研究と方法論の確認をしておく。（各60分以上）
	授業内容	研究目的の設定し、方法論の検討と先行研究の検討を行う。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。（各60分以上）
5～12	事前学習	前回までの講義を踏まえ、研究計画を修正しておく。（各60分以上）
	授業内容	仮説ないしは問題意識の再確認し、研究テーマの決定した後に、論文概要の中間報告を行い、講評する。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。（各60分以上）

13～20	事前学習	必要な先行研究に関するレビューを完了しておく。（各60分以上）
	授業内容	論文指導として、先行研究の読み方の指導と仮説の検討を行う。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。（各60分以上）
21～30	事前学習	仮説に至る過程を中心に、報告の準備をしておく。（各60分以上）
	授業内容	論文指導として仮説の書き方と設定の仕方を指導した後、2回目の中間報告を行い、講評する。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。（各60分以上）
31～34	事前学習	方法論に関する報告の準備をしておく。（各60分以上）
	授業内容	論文指導として方法論の解説と検討を行う。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。（各60分以上）
35～41	事前学習	必要な資料・データ等をすべてそろえ、内容を理解しておく。（各60分以上）
	授業内容	論文指導として分析方法の解説及び考察を行う。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。（各60分以上）
42～45	事前学習	一通り研究をすすめ、報告の準備をしておく。（各60分以上）
	授業内容	3回目の中間報告を行い、講評する。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。（各60分以上）
46～54	事前学習	分析等すべての研究過程を終えて、一先ず最終的な報告ができる状態にする。（各60分以上）
	授業内容	論文指導として分析結果の検討及び分析結果の修正を行う。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。（各60分以上）
55～58	事前学習	論文を書き上げ、内容のチェックを受けられる状態にしておく。（各60分以上）
	授業内容	論文指導として分析結果の修正及び論文の表記方法の確認と指導を行う。
	事後学習	講義内容を確実に理解する。疑問点は整理し次回の講義で質問できるようにまとめる。（各60分以上）
59～60	事前学習	修正を完了し、論文を完成させておく。（各60分以上）
	授業内容	論文指導の総括として、完成した論文の研究発表と講評を行う。
	事後学習	指摘された点を修正する。論文を完成させる。（各60分以上）

科目名	論文指導 I ～Ⅳ	担当者	中 正 樹	期間	通 年	単位数	1
-----	-----------	-----	-------	----	-----	-----	---

授業概要	学術論文の執筆に必要な研究の手続き、具体的には研究計画の立案、テーマの選定、資料の収集、先行研究のレビュー、仮説の構築、調査の実施、そしてデータの分析に至るまでの一連の作業について指導する。受講生は指導によって得られた知見をもとに修士論文に取り組み、その完成を目指す。				
授業目的・到達目標	授業目的：修士論文の執筆に必要な能力を修得する。 到達目標：ジャーナリズムを研究領域とする修士論文を執筆し、完成させる。 関連するDP・CP：1、2、3、4、5、6、7、8				
履修条件	大学院新聞学研究科の大学院生のうち、ジャーナリズムを研究領域として修士論文の執筆を目指す者。				
授業方法	修士論文執筆を目的としたディスカッションと研究報告を中心に進める。授業では、原則としてノートパソコンまたはタブレットを用いる。授業に関する告知や課題などの提出は、Google Classroomを用いる。				
成績評価	種別		割合	評価方法	
	定期試験		0%		
	平常評価		100%	授業への参加度、および修士論文の完成度で評価する。	
教科書	年	出版社		書名	著者名
	備考	特になし。			
参考書	受講生の研究テーマによって、必要な研究文献を適宜指示する。				
オフィスアワー	月曜日12:10-13:00 研究室（9号館5階9506研究室） ※事前にアポイントメントをとること（メールアドレス：naka.masaki@nihon-u.ac.jp）				

【授業計画】

回数	授 業 内 容	
1	事前学習	自分が研究したいテーマについて説明できるようにしておく（2時間）。
	授業内容	ガイダンス／導入講義 修士論文完成までのスケジュール、および受講者の研究テーマを確認する。
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（2時間）。
2～4	事前学習	自分が研究したいテーマについて説明できるようにしておく（各回2時間）。
	授業内容	研究テーマおよび研究背景の検討
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
5～12	事前学習	先行研究を収集、概観、検討する（各回2時間）。
	授業内容	先行研究の整理および方法論の検討
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。

13～20	事前学習	研究計画に基づき、修士論文執筆を進める（各回2時間）。
	授業内容	中間報告 先行研究の概観、研究目的、研究方法、仮説、今後の見通し等について報告する。
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
21～30	事前学習	研究計画に基づき、研究データおよび研究資料を揃え、検討する（各回2時間）。
	授業内容	研究過程の報告 研究データのおよび研究資料の検討、分析結果について報告する。
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
31～34	事前学習	研究データおよび研究資料をすべて揃え、精査する（各回2時間）。
	授業内容	分析結果の検討 研究データのおよび研究資料の検討、分析結果について報告する。
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
35～41	事前学習	これまでの分析結果および考察について検討する（各回2時間）。
	授業内容	分析結果の考察
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
42～45	事前学習	先行研究の概観、研究目的、研究方法、仮説、分析結果、考察について検討する（各回2時間）。
	授業内容	研究成果のまとめ 修士論文の草稿を完成させ、報告する。
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
46～54	事前学習	中間報告で指摘された内容の修正に取り組む（各回2時間）。
	授業内容	論文指導 修士論文の内容を完成させ、報告する。
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
55～58	事前学習	修士論文の提出に向け、論文を完成させる（各回2時間）。
	授業内容	論文指導 修士論文の書式を整え、完成度を高める。
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める（各回2時間）。
59～60	事前学習	完成した修士論文をもとに、口述試験に備える（各回2時間）。
	授業内容	論文指導
	事後学習	指導内容を踏まえ、問題点を整理し、研究を進める。最終審査に向けて修士論文の完成度を上げ、口述試験に備える（各回2時間）。

科目名	論文指導 I ～IV	担当者	山口 仁	期間	通年	単位数	1
-----	------------	-----	------	----	----	-----	---

授業概要	メディア・ジャーナリズム理論に関する研究論文（修士論文）の執筆に向けて、当該分野に関するテーマの設定、先行研究のレビュー、アプローチの設定、論文構成、各種発表などの事柄に関する指導を行っていく。受講生は自身の研究の進捗に応じて、報告、ディスカッションを行う。			
授業目的・到達目標	修士論文を完成させることがこの授業の目標である。なお『大学院新聞学研究科学位論文に係る評価に当たっての基準』には「提出された学位請求論文が、独創性、新奇性、論旨の一貫性、資料適切性などを含め、広く学界に裨益するものであること」とあることから、ここでいう「修士論文」とは「（若干の編集と修正をすることで）査読誌に掲載される内容の学術論文」のことであると担当者は考えている。 関連するDP・CP：1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8			
履修条件	メディア・ジャーナリズム理論に関する基礎的素養を有していること。また担当教員の専門分野を踏まえ、理論研究主体の論文を執筆しようとする意思と意欲を有していること。			
授業方法	論文指導であることを踏まえ、演習形式で実施する。そして演習形式である以上、受講生には綿密な準備、充実した報告、議論へ積極的な参加が求められる。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験			
	平常評価	100%	適宜、平常点（報告準備、報告の質、議論への参加の積極性）で評価する。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	2017	Routledge	Theories of Journalism in a Digital Age	S. Steensen他
	2019	Routledge	The Handbook of Journalism Studies (2. ed)	K. Jørgensen他
	備考	S. バラン、D. デイビス著、宮崎寿子監訳(2007)『マス・コミュニケーション理論<上><下>』新曜社。 D. マクウェール著、大石裕監訳『マス・コミュニケーション研究』勁草義塾大学出版会。も参考のこと。		
参考書	M. Carlson and S. Lewis eds. (2015) Boundaries of JOURNALISM, Routledge. 山口仁 (2018) 『メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実』勁草書房。			
オフィスアワー	火曜日・水曜日の昼休み。事前にメール等で連絡すること。			

【授業計画】

回数	授 業 内 容		
1	事前学習	受講生は、自身がメディア・ジャーナリズム理論の系譜をどのように理解しているのか、その中でどこに注目した理論的研究を希望するのかについて熟考した上で、報告のための資料を作成してくること。（30分以上）	
	授業内容	当該研究指導の方針について解説する。受講生は自身の理論研究に関する問題関心を報告する（一人10分程度）。その上でディスカッションを行う。その後、理論的問題関心の確認し、理論研究に関する修士論文を執筆する意思確認も行う。	
	事後学習	シラバス掲載の教科書・参教書、もしくは自身が読んできた関連文献（理論研究に関するもの）をもとに、当該分野の理論研究の系譜を把握し、自身の理論的テーマを確定させる。その後、次回の報告のためのレジュメと資料を作成する。並行して、サブノート・ファイルを作成する。（30分以上）	
2～4	事前学習	報告に向けたレジュメ（5以上の参考文献に言及したもの）を作成し、報告に備えること。サブノート・ファイルを作成し、適宜、所定のサーバーにアップロードすること。（30分以上）	
	授業内容	受講生は自身の理論研究の進捗状況に関する報告を行う（一人15分以上）。その上でディスカッションと指導を行う。	
	事後学習	ディスカッションと指導を反映したうえで資料を修正し、研究を進めていく。次回の報告のためのレジュメと資料を作成する。並行して、サブノート・ファイルを作成する。（30分以上）	
5～12	事前学習	報告に向けたレジュメ（10以上の参考文献に言及したもの）を作成し、報告に備えること。サブノート・ファイルを作成し、適宜、所定のサーバーにアップロードすること。（30分以上）	
	授業内容	受講生は自身の理論研究の進捗状況に関する報告を行う（一人15分以上）。その上でディスカッションと指導を行う。特にこの時期（7月前後）に実施される院生研究発表会に向けた指導を行っていく。想定される報告のレベルは「日本国内の関連する先行研究の網羅的把握と詳細テーマの設定ができること」である。	
	事後学習	ディスカッションと指導を反映したうえで資料を修正し、研究を進めていく。次回の報告のためのレジュメと資料を作成する。並行して、サブノート・ファイルを作成する。（30分以上）	

13～20	事前学習	授業や院生研究発表会でのフィードバックを踏まえて、研究を進めていく。途中の夏季休暇も含め、報告に向けたレジュメ（20以上の参考文献に言及したもの）を作成すること。サブノート・ファイルを作成し、適宜、所定のサーバーにアップロードすること。（30分以上）
	授業内容	受講生は自身の理論研究の進捗状況に関する報告を行う（一人30分以上）。その上でディスカッションと指導を行う。理論研究における独自の解釈を生み出すための道筋を探っていく。
	事後学習	ディスカッションと指導を反映したうえで資料を修正し、研究を進めていく。次回の報告のためのレジュメと資料を作成する。並行して、サブノート・ファイルを作成する。（30分以上）
21～30	事前学習	報告に向けたレジュメ（20以上の参考文献に言及、そのうち10は厳選したもの）を作成し、報告に備えること。サブノート・ファイルを作成し、適宜、所定のサーバーにアップロードすること。（30分以上）
	授業内容	受講生は自身の理論研究の進捗状況に関する報告を行う（一人20分以上）。特にこの時期（1月前後）に実施される院生研究発表会に向けた指導を行っていく。想定される報告のレベルは「詳細なテーマを設定し、それに基づいて海外関連研究の先行研究の把握と整理ができること」である。
	事後学習	ディスカッションと指導を反映したうえで資料を修正し、研究を進めていく。次回の報告のためのレジュメと資料を作成する。並行して、サブノート・ファイルを作成する。論文草稿の執筆に向けた準備も行う。（30分以上）
31～34	事前学習	適宜、論文草稿（30以上の厳選した参考文献に言及、そのうち20は厳選したもの）を作成し、報告に備えること。論文草稿のファイルは所定のサーバーに随時アップロードすること。論文草稿は修士論文相当の分量であることが求められる。（30分以上）
	授業内容	受講生は自身の理論研究の進捗状況に関する報告を行う（一人30分以上）。その上でディスカッションと指導を行う。
	事後学習	ディスカッションと指導を反映したうえで草稿を修正し、研究を進めていく。次回の報告のためのレジュメと資料の作成。（30分以上）
35～41	事前学習	適宜、論文草稿を加筆・修正しつつ、報告に備えること。（30分以上）
	授業内容	受講生は自身の理論研究の進捗状況に関する報告を行う（一人45分以上）。その上でディスカッションと指導を行う。特にこの時期（7月前後）に実施される院生研究発表会に向けた指導を行っていく。想定される報告のレベルは「先行研究に関する独自の考察ができること」である。
	事後学習	ディスカッションと指導を反映したうえで草稿を修正し、研究を進めていく。次回の報告のためのレジュメと資料の作成。（30分以上）
42～45	事前学習	適宜、論文草稿の加筆・修正、関連資料を作成しつつ、報告に備えること。（30分以上）
	授業内容	受講生は自身の理論研究の進捗状況に関する報告を行う（一人45分以上）。その上でディスカッションと指導を行う。特にこの時期（7月前後）に実施される院生研究発表会に向けた指導を行っていく。想定される報告のレベルは「先行研究に関する独自の考察ができること」である。研究の進捗状況に応じて、適宜、学外での発表（例えば学会のポスターセッション、個人報告）に向けた指導も行う。
	事後学習	ディスカッションと指導を反映したうえで草稿、および発表資料を修正し、研究を進めていく。次回の報告のための関連資料の作成。（30分以上）
46～54	事前学習	適宜、論文草稿の加筆・修正、関連資料を作成しつつ、報告に備えること。（30分以上）
	授業内容	受講生は自身の理論研究の進捗状況に関する報告を行う（授業時間内で柔軟な時間設定の下、報告することが求められる）。その上でディスカッションと指導を行う。また、学外での報告を行う場合はそれに向けた指導も行う。
	事後学習	ディスカッションと指導を反映したうえで草稿、および発表資料を修正し、研究を進めていく。次回の報告のための関連資料の作成。（30分以上）
55～58	事前学習	適宜、論文草稿の加筆・修正、関連資料を作成しつつ、報告に備えること。（30分以上）
	授業内容	受講生は自身の理論研究の進捗状況に関する報告を行う（授業時間内で柔軟な時間設定の下、報告することが求められる）。その上でディスカッションと指導を行う。事前審査報告会に向けた指導も行う。
	事後学習	論文の完成に向けた最終調整。（30分以上）
59～60	事前学習	修士論文の修正。（30分以上）
	授業内容	修士論文の完成に向けた指導。
	事後学習	論文の推敲・最終確認。（30分以上）